

ネット利用に起因した非行・被害児童等の ネット利用実態把握を目的とした調査

令和元年度最終報告書

令和3年4月
一般財団法人 LINEみらい財団

調査概要

はじめに

非行・被害児童等の傾向

結果詳細

1. 利用上の環境や意識
2. 利用状況
3. 安全に関わること
4. 情報モラルに関わること
5. 卒業後の進路や友人関係
6. RISTEX調査との比較
7. 令和2年度高校生調査との比較

調査概要 1

調査目的	ネット利用に起因した非行・被害児童等※1の、スマートフォンとネットの安全な利用および問題防止のための利用実態把握
調査手法	神奈川県警察で調査を実施し、多摩大学情報社会学研究所が分析※2
調査対象者	神奈川県警察にてネット利用に起因して補導等をした未成年（18才以下）※3
有効回答数	中学生1名、高校生78名 その他21名 合計100名（うち有効回答数98名）
分析対象者	調査対象者のうちの高校生78名
主な質問項目	・ ネットの利用状況等 ・ ネットトラブル状況と対策 ・ 学校、自宅での安心感 ・ 就学環境 ・ 金銭感覚 ・ さみしさ・孤独感や仲間との連帯意識
調査日時	2018年9月～2020年4月

※1 ネット利用に起因して主に性的な非行・被害、サイバー補導等に至った未成年を非行・被害児童等とします。

※2 本調査は任意で、協力に応じた未成年のみから回答を取得いたしました。またプライバシー等に配慮する為、回答はすべて神奈川県警察内部にて個人を特定できない形で集計し、分析を担当した多摩大学情報社会学研究所は集計した統計データのみを利用しました。

※3 トラブル発生時に未成年であったものを対象として調査を行いました。

調査概要 2

有効回答の98人中、中学生は1人、高校生が78人、その他（短大、社会人等）が19人でした。本調査では、高校生78人を分析の対象とし、2018年度に実施した神奈川調査※1とRISTEX調査※2、2020年度に実施した高校生調査※3のデータと比較して、非行・被害児童等の高校生の特徴を明らかにします。

有効回答	男性	女性	合計
中学生	0	1	1
高校生	22	56	78
その他	3	16	19

比較対象の調査

※1 平成30年度実施 神奈川調査

平成30年度に神奈川県教育委員会で開催した調査のうち高校生の回答（63校5,537人）

※2 平成30年度実施 RISTEX調査

中央大学・多摩大学情報社会学研究所が社会技術研究開発センター（RISTEX）のプロジェクトで実施した調査（19校5,845人）

※3 令和2年度実施 高校生調査

令和2年度に実施した高校生（1校146人）への調査

本調査結果と、他の高校生を対象とした調査結果と比較したところ、非行・被害児童等の高校生には下記の傾向がありました。

■一般の高校生と同様の傾向

- ・ 端末利用開始時期 (P10)
- ・ ネットサービスの利用率 (P14~17)
 - 電子メール、Facebook、Twitter、youtube
- ・ プライバシー情報の公開範囲 (P19~21)
 - 本名、ニックネーム
- ・ トラブルに遭遇した際の相談先 (P24)
- ・ 家庭内ルールの有無 (P26~27)
 - 利用場所、利用料金の限度額、ネットの利用制限
- ・ 家庭内ルールの決め方 (P28)
- ・ プライバシー侵害に関する法的理解（肖像権）(P32)
- ・ 情報モラル教育の受講経験の有無 (P33)
- ・ 情報モラル教育における気づきの有無 (P34)
- ・ 学校内友達数 (P37)
- ・ ネット友達の属性 (P40)
 - 性別、職業

■一般の高校生と異なる傾向

- ・ フィルタリング設定有無 (P10)
- ・ ネット利用安全意識 (P12)
- ・ 利用サービス (P14~17)
 - 通話、LINE、KAKAO、Instagram、snow
- ・ スマホ利用時間 (P18)
- ・ プライバシー情報公開範囲 (P19~21)
 - 学校名・部活、メアド・LINEID、自分の顔写真、住んでいる市町名
- ・ 知らない人からのメッセージ受信割合 (P23)
- ・ 暴力的表現（加害行為）(P25)
- ・ 家庭内ルールの有無（利用時間）(P26~27)
- ・ 家庭内ルールの遵守割合 (P29)
- ・ 保護者からの注意頻度 (P30)
- ・ プライバシー侵害に関する法的理解度（悪口）(P32)
- ・ 卒業後の進路 (P36)
- ・ ネット友達数 (P38)
- ・ ネット友達とつながった発端となったサービス (P39)
- ・ 自宅への信頼度（安心できる場所か否か）(P42)
- ・ 学校への信頼度（安心できる場所か否か）(P43)
- ・ 勉強が好きか否か (P44)
- ・ 成績 (P45)
- ・ 将来の夢 (P46)
- ・ お金への価値観 (P48)
- ・ 仲間との連帯意識 (P50)

非行・被害児童等の傾向の要点（一般の高校生と比較して）

- ・ ネットサービス（特にSNS）をよく利用しますが、利用抑制やリスク回避の意識や行動は低く、そのせいか安全に使っている意識も低い傾向にあります。
- ・ ネット上では、自己情報を開示する傾向にあり、メッセージ受信数も多く、ネット上で人と積極的につながる傾向にあります。
- ・ 家庭では利用ルールがあるものの、保護者からの注意喚起も多い傾向にあります。しかし、自宅への信頼度は高くなく、ルールの遵守意識は低い傾向にあります。
- ・ 学校では、情報モラル教育を受講していないわけではありません。また、学校内での友人も少なくはありませんが、学校自体への信頼度は低い傾向にあります。将来の夢は持っていますが、勉強は苦手意識があり、成績も良いわけではありません。卒業後の進路は進学希望は少ない傾向にあります。
- ・ 「多少無理をしてでもお金が欲しい」など、お金への執着が高い傾向にあります。
- ・ 「だれかそばにいてほしい」など、さみしさや孤独感に関連する感情は、一般の高校生とはあまり差がない傾向にあります。
- ・ 「できるだけ仲間と同じように行動したい」など、仲間との連帯意識は低い傾向にあります。
- ・ 「仲間はずれにされるのは絶対にイヤだ」「流行遅れになるのはイヤだ」に対しては、仲間はずれに対する抵抗感の小さい生徒および、流行遅れに対する抵抗感の大きい生徒が多くいる傾向にあります。

考察

本調査の結果から、非行・被害児童等の高校生においては、現実の世界で信頼できる場所が少ないせいか、ネット上でのつながりを求める傾向にあり、トラブルに巻き込まれるリスクは通常よりも高まっている状況といえます。そして、トラブルに巻き込まれた場合には、周囲の大人に相談しにくいことも想定され、被害が拡大するリスクを内包しています。ネット利用が行き過ぎにならないよう、機能面のみならず、教育等で本人の自覚やリスク意識の醸成をしていく必要がありますが、そのみならず学校や家庭という生活の基盤となる部分で、心理的にも安定して過ごせるような環境づくりもまた必要であるといえます。

結果詳細

データの確認方法

本報告書では、クロス集計での数値を用いて、統計的な分析（カイ二乗検定※という分析手法）を行いました。

本調査は、非行・被害児童等と一般の高校生を対象にし、2つの集団の値を比較しています。一般に大人数を対象とした調査では、母集団全体を直接調査することは困難であるため、一部を取り出して調査を行います。一般にこのような調査では、二つの母集団（本調査では、神奈川県の子供・被害児童等の全員と一般の高校生全員）の間に差がなくても、サンプリングエラー（抽出に伴う偶然の誤差）によって差が生じることがあります。

そのため、二つのサンプルの間の差が、誤差とみなせる水準を超えるほどの大きな差（有意差）かどうかを確認するために、統計分析を行いました。

分析の結果については、視覚的にわかるように、グラフに右にあるような色分けしたマークを付けています。

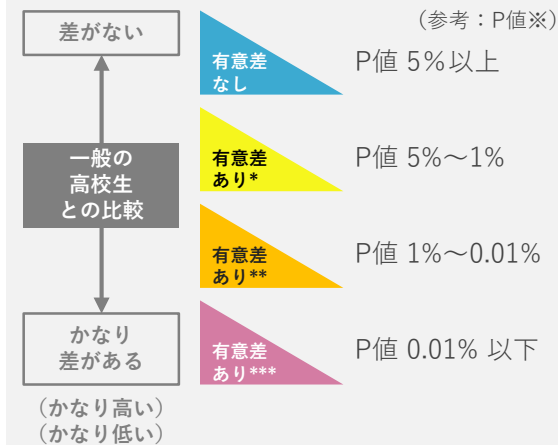
（補足：文中での表記について）

本報告書では、統計分析の結果、P値が5%以上（有意差なし）の場合は文中では「差がない」と表記しています。P値が5%未満（有意差あり）の場合はP値が5%～1%は「やや差がある（やや高い、やや低い）」、1%～0.01%は「差がある（高い・低い）」、0.01%以下は「かなり差がある（かなり高い・かなり低い）」と表記しています。

※カイ二乗検定の具体的な内容に関しては、統計学関連の書籍やWeb情報等をご参照ください

例：荻谷千凰彦，『統計学の話（第4版）』，東京図書，2002年

統計的な分析結果の色分け



※ P値とは、発生確率を知るための指標で、本調査では一般の高校生との差がどの程度あるかどうかを知るためのものとなります（pとはprobabilityの略です）。

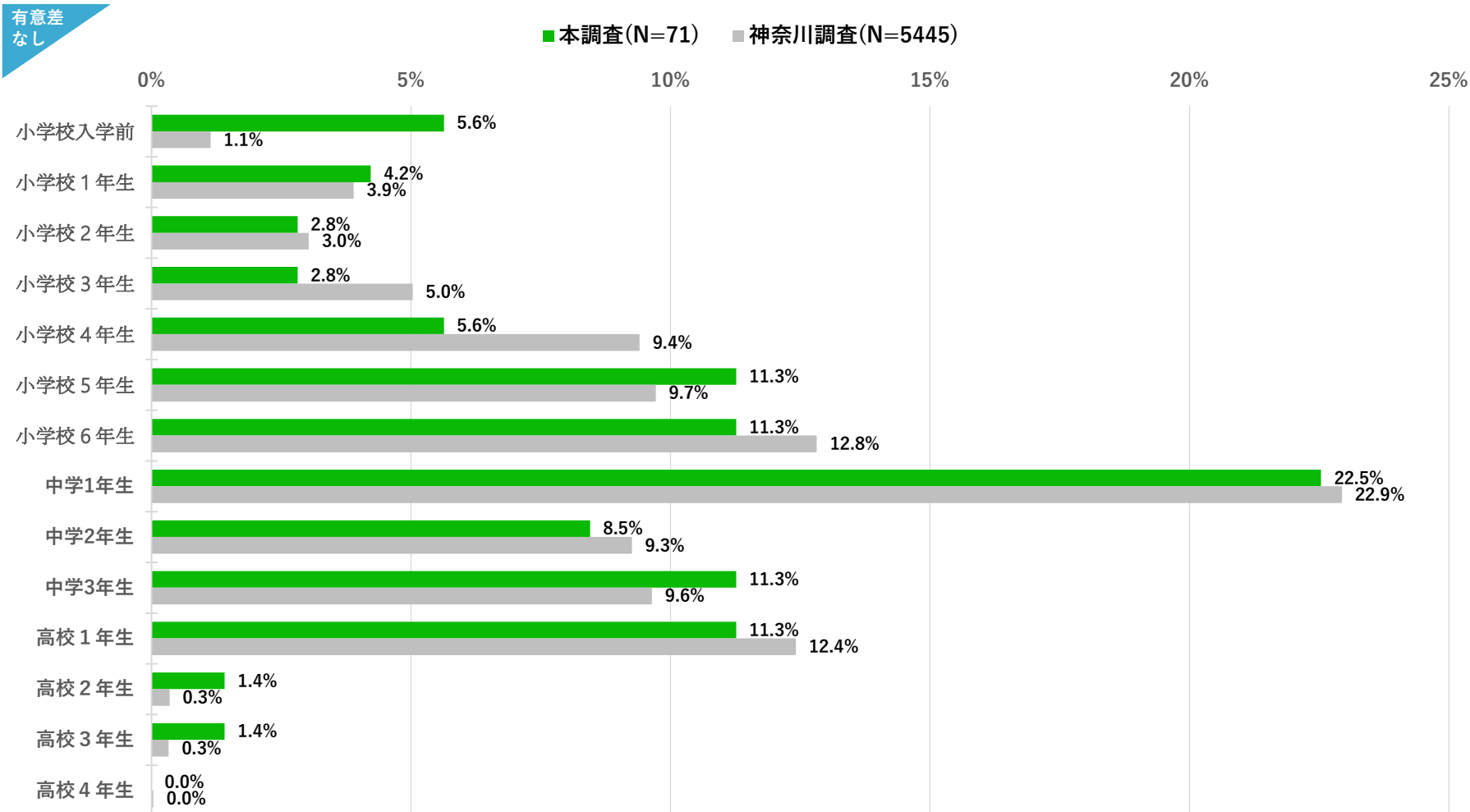
※ 有意差とは、偶然の結果（誤差）ではない意味のある差であることを示すものです。

1 利用上の環境や意識

1-1 利用を開始した時期

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、利用開始は中学1年生が22.5%で最も多くなっています。利用開始時期の割合は、神奈川調査とは差はありませんでした。

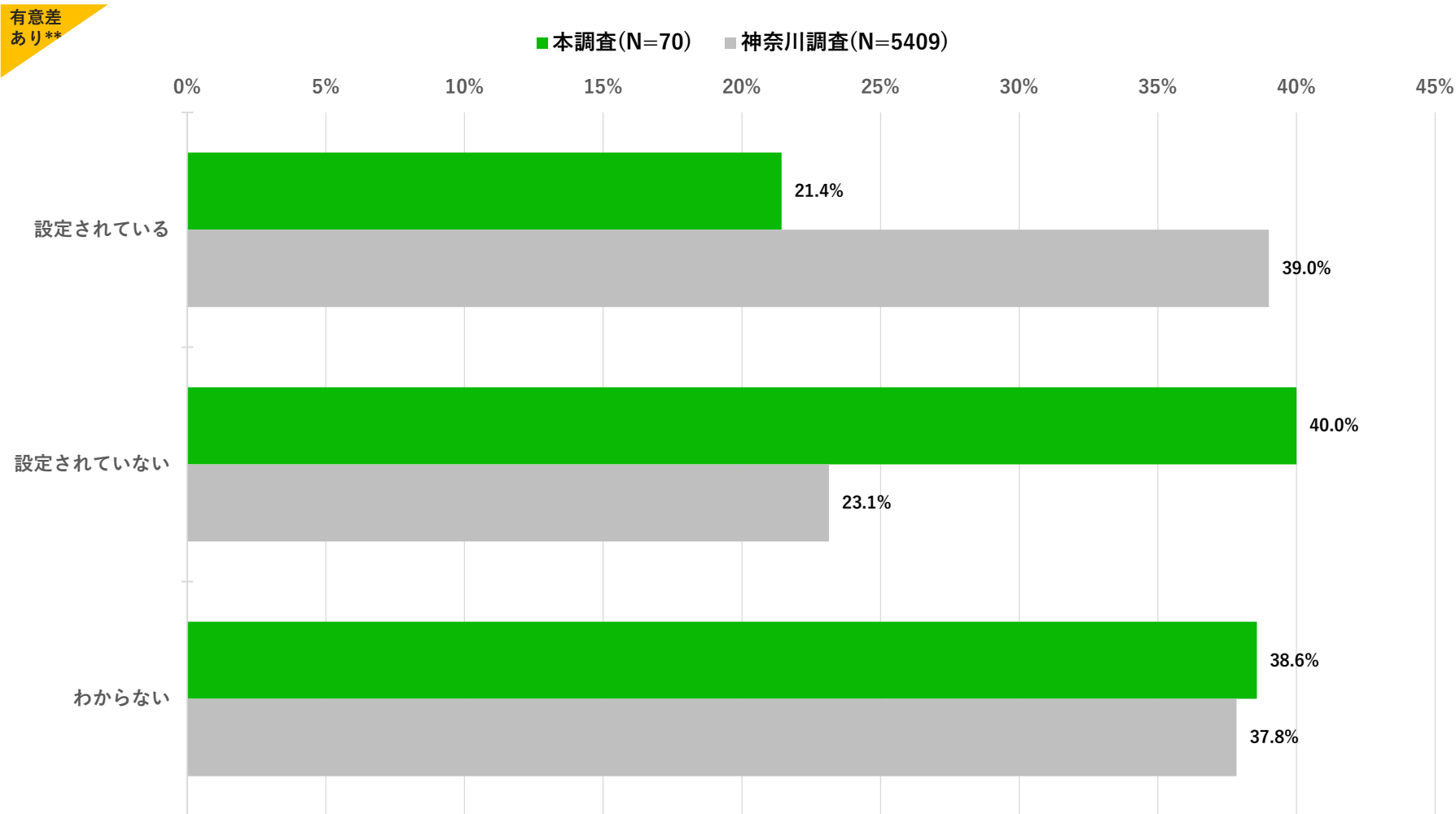
問 携帯電話等を初めて持ったのはいつですか。



1-2 フィルタリング設定の有無

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、フィルタリングの設置されている割合は21.4%、設置していない割合は40.0%となっています。設置されている割合は、神奈川調査の割合39.0%より低く、設置していない割合は神奈川調査の23.1%より高くなっています。

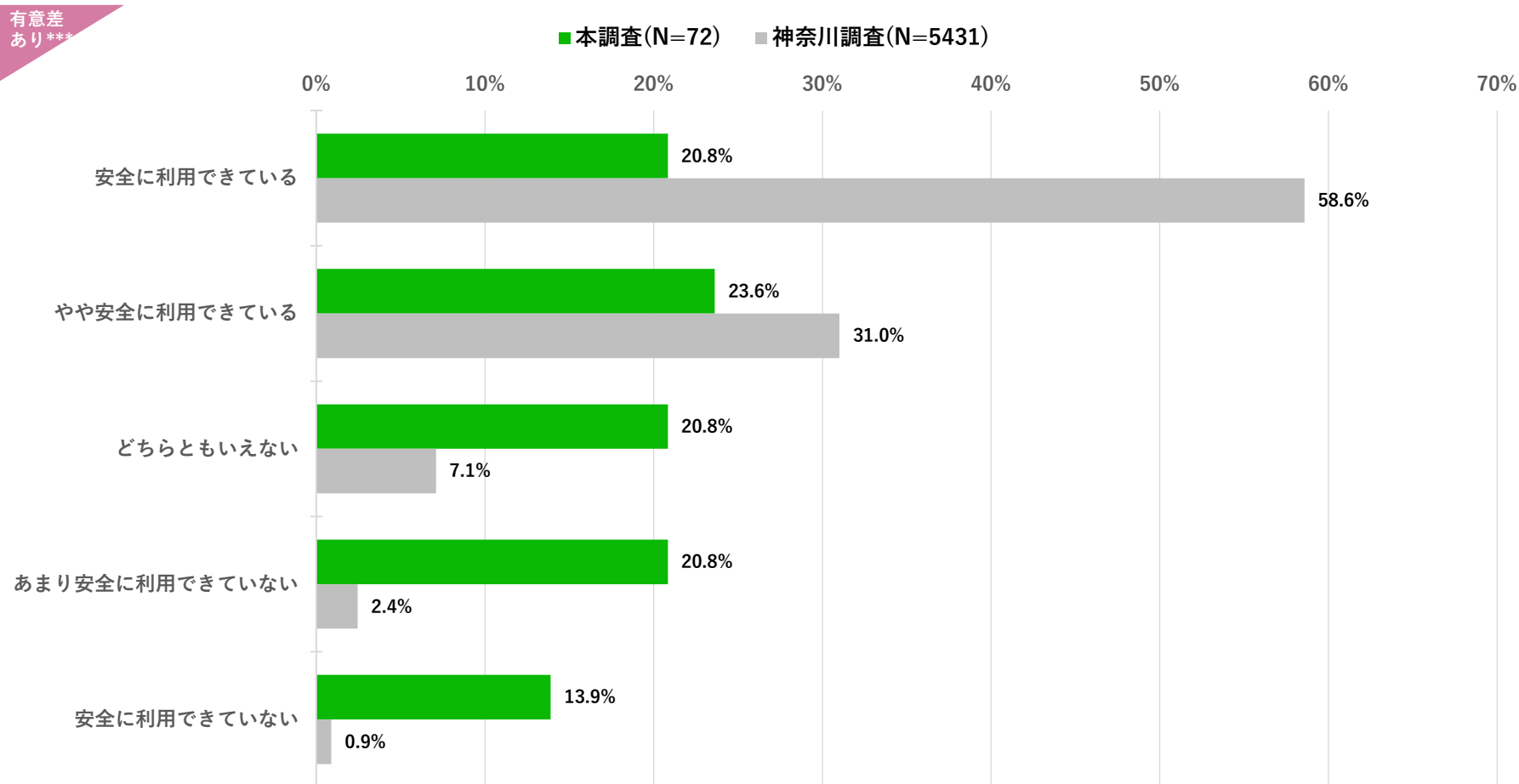
問 あなたが持っている携帯電話等の種類や設定についてお聞きます。(2)あなたの携帯電話等には、フィルタリングのサービスやアプリケーションが設定されていますか。



1-3 ネット利用の安全意識

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、ネット利用の安全意識は、安全に利用できているが20.8%、やや安全に利用できているが23.6%です。神奈川調査の安全に利用できている58.6%と、やや安全に利用できているの31.0%より、かなり低くなっています。どちらとも言えないは20.8%、あまり安全に利用できていないは20.8%、安全に利用できていないは13.9%です。神奈川調査の、どちらとも言えない7.1%、あまり安全に利用できていない2.4%、安全に利用できていない0.9%より、かなり高くなっています。

問 あなたが持っている携帯電話等の種類や設定についてお聞きます。(3) あなたはインターネットを安全に利用できていると思いますか。



2 利用状況

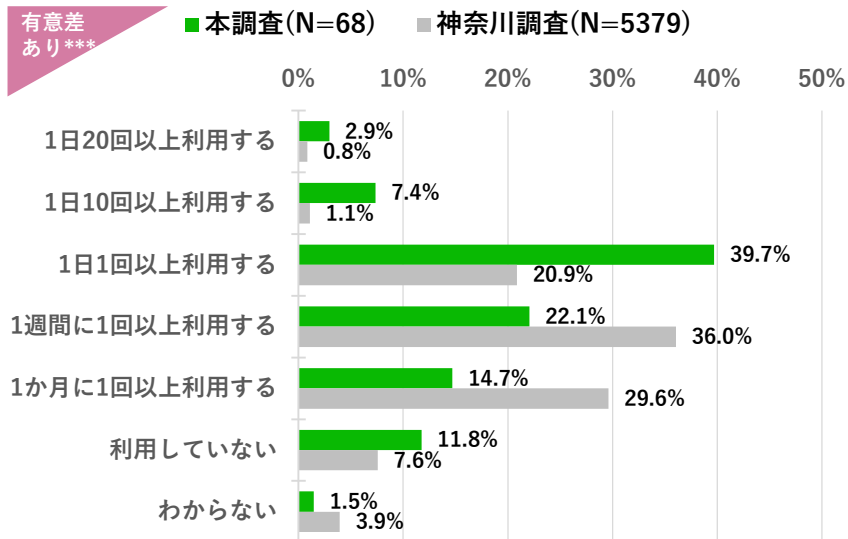
2-1 ネットサービス毎の利用率

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、ネットサービス毎の利用率で、1日20回以上利用する割合が特に高いサービスは、LINEが66.2%、Twitterが31.4%、Instagramが37.1%、YouTubeが30.4%となっています。

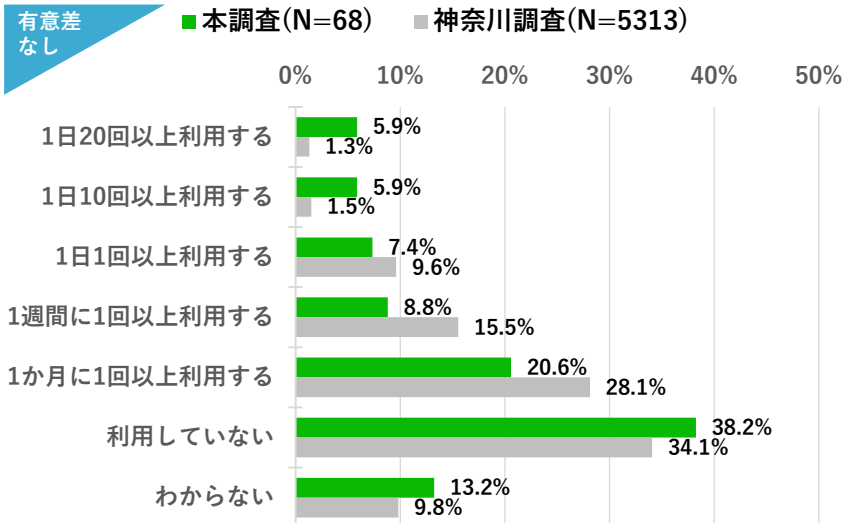
神奈川調査の結果と比較すると、通話、LINE、KAKAO、Instagram、SNOWの利用頻度で高い傾向になっています。

問.あなたが利用しているサービスの利用頻度を教えてください。

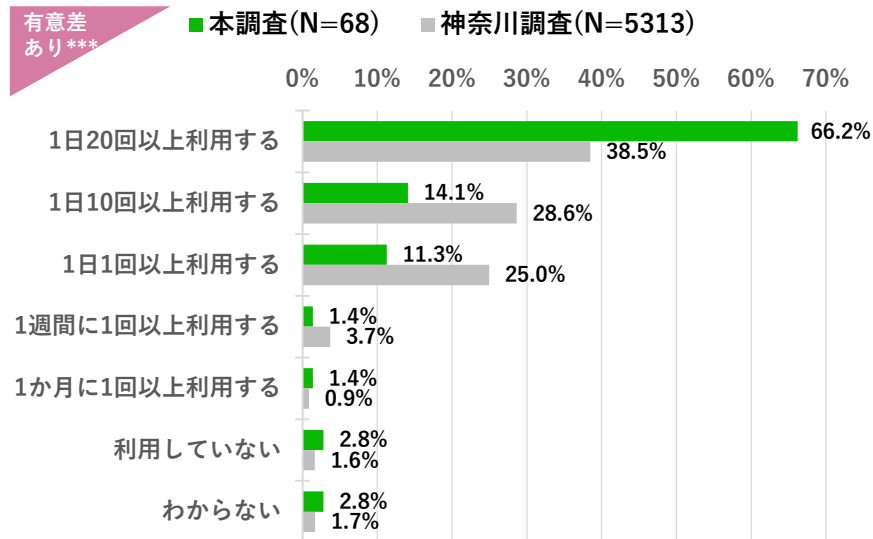
通話



電子メール

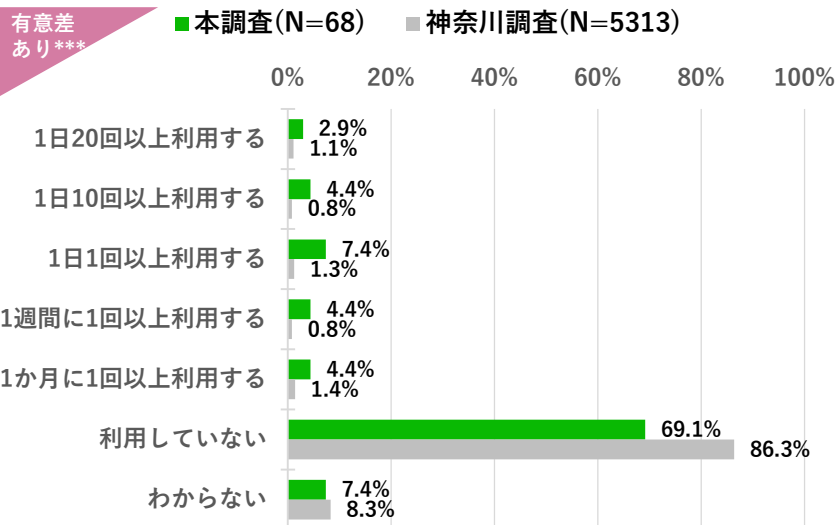


LINE

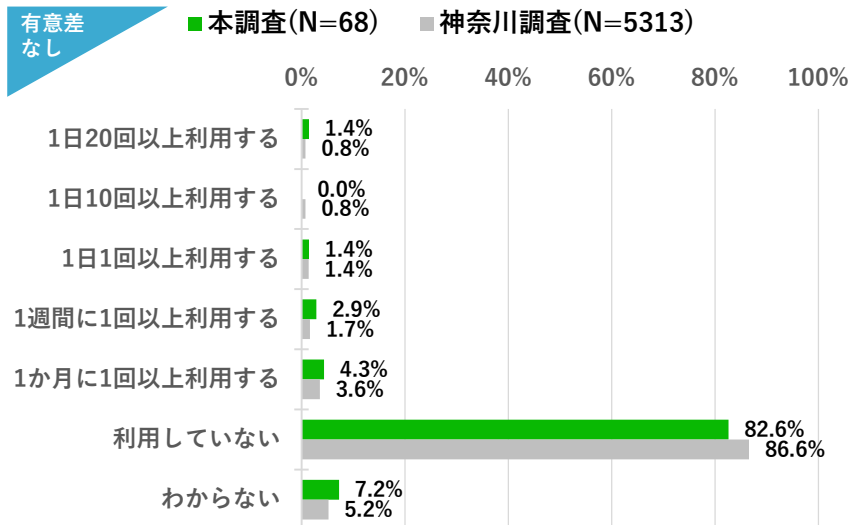


2-1 ネットサービス毎の利用率2

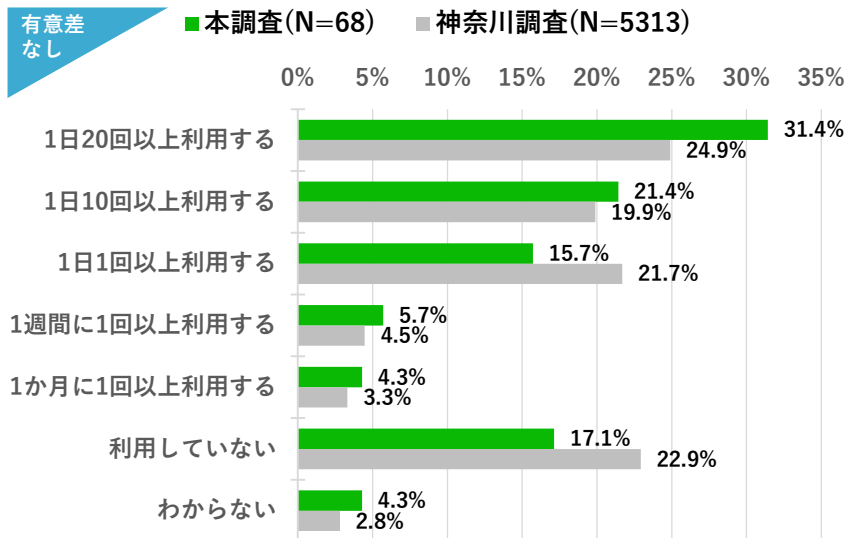
KAKAO



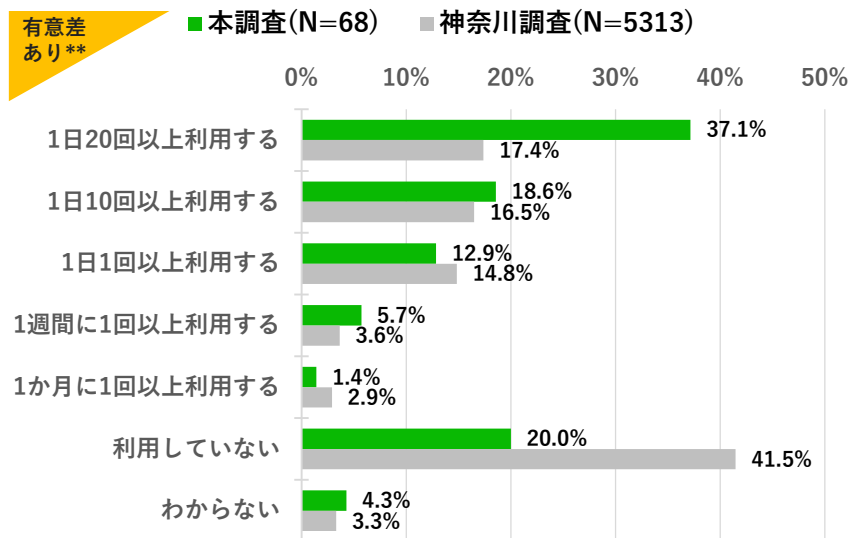
Facebook



Twitter

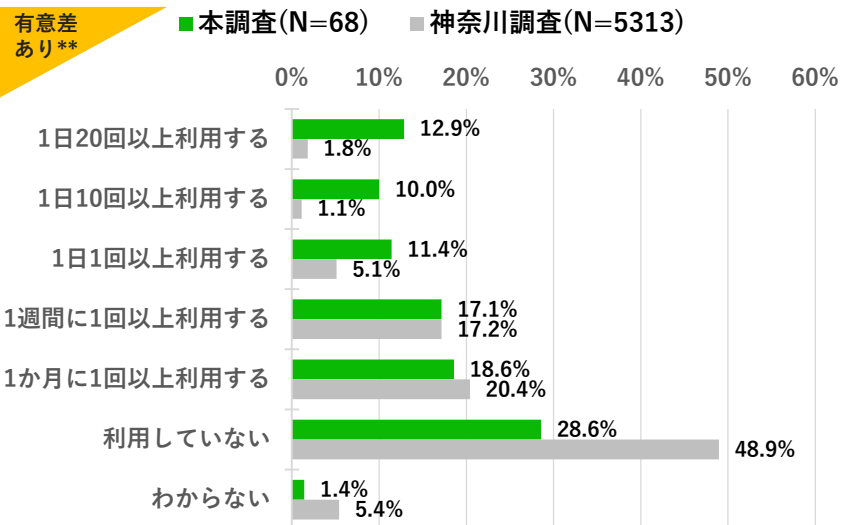


Instagram

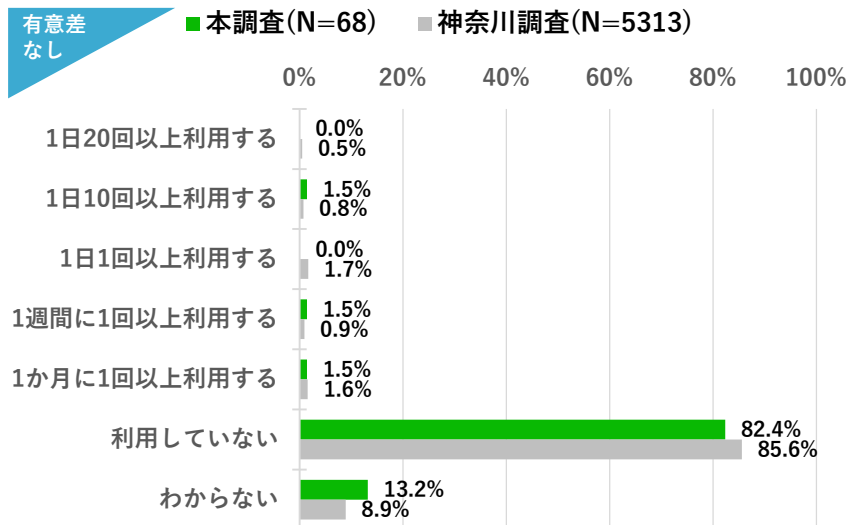


2-1 ネットサービス毎の利用率3

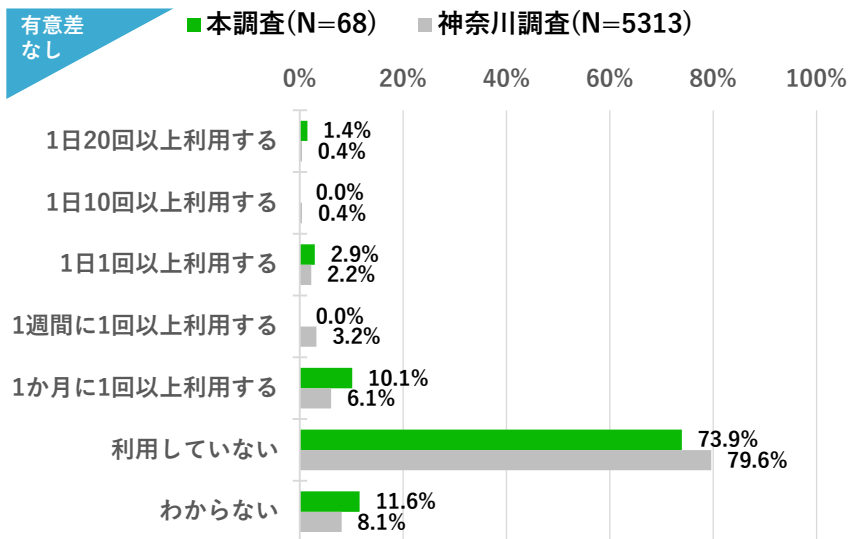
SNOW



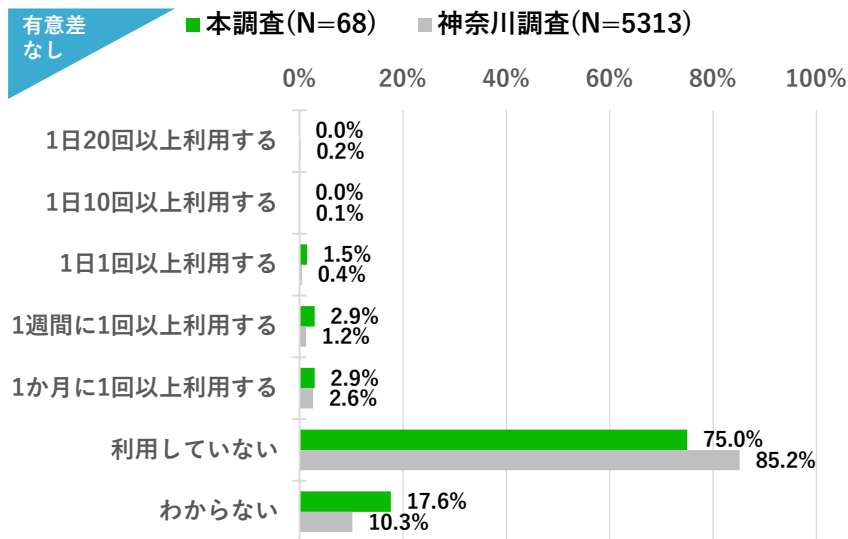
Studyplus(スタディプラス)



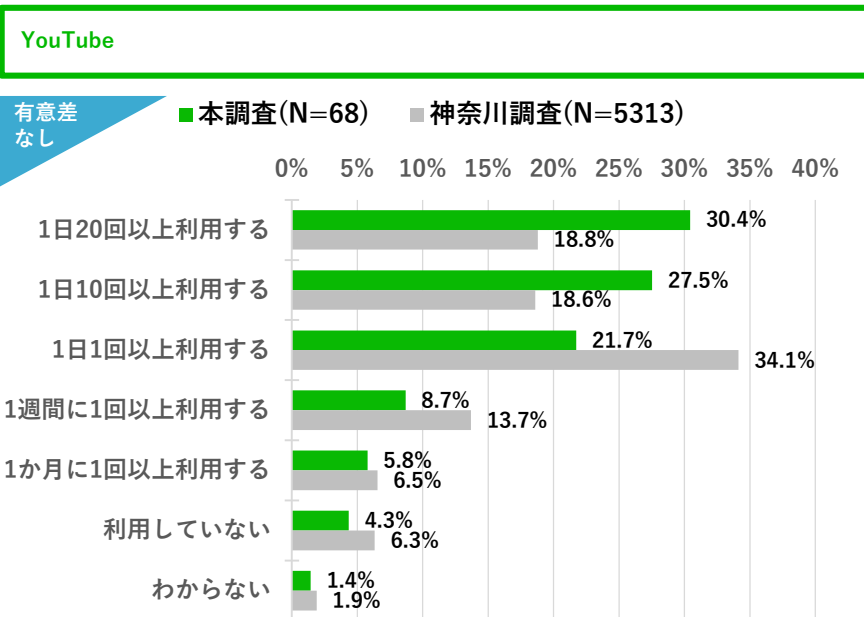
スタディサプリ



Classi (クラッシー)



2-1 ネットサービス毎の利用率3

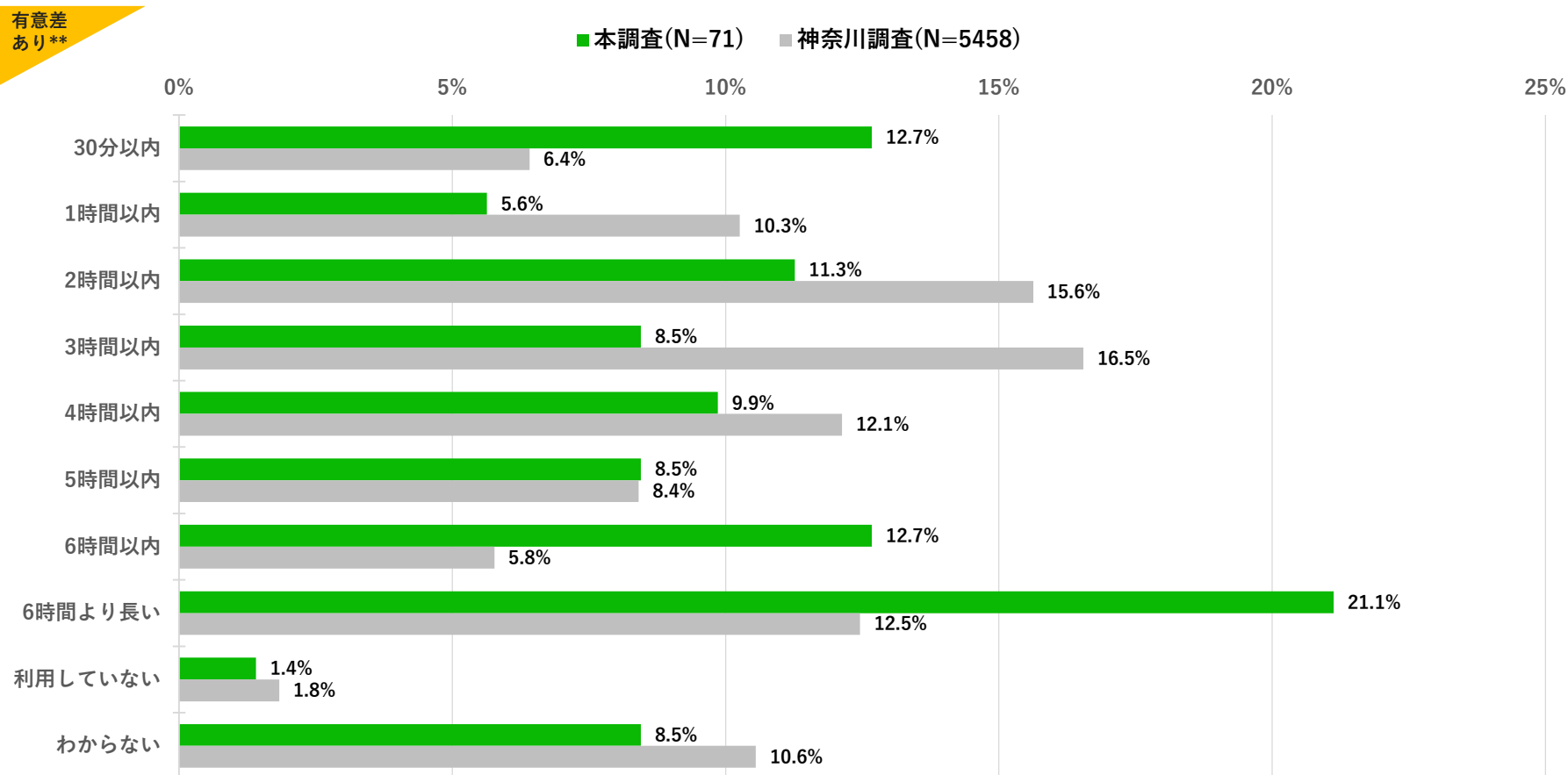


2-2 1日当たりのスマートフォンの利用時間

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、1日当たりのスマートフォンの利用時間は、30分以内が12.7%、6時間より長い21.1%となっています。神奈川調査の、30分以内の6.4%、6時間より長い12.5%より多くなっています。また、2時間以内が11.3%、3時間以内が8.5%で、神奈川調査の、2時間以内15.6%、3時間以内16.5%より少なくなっています。

問 あなたが、携帯電話等を1日にどのくらい使っているかについてお聞きます。

(4) 携帯電話等を使って、電子メールの送受信をしたり、掲示板・ブログ・SNS・メッセージサービスでメッセージを書いたり読んだり、サイトや動画を見たり、ゲームをしたりする時間の合計



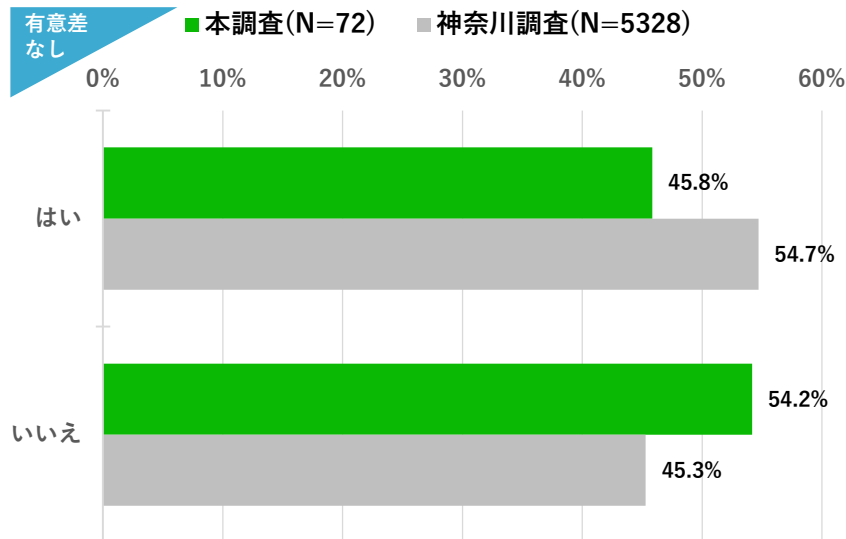
2-3 プライバシー情報の公開範囲

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、プライバシーの公開範囲は、本名が45.8%、ニックネームが63.9%、学校や部活名が25.0%、メールアドレス等が9.9%、市町村名が28.2%、顔写真が58.3%となっています。

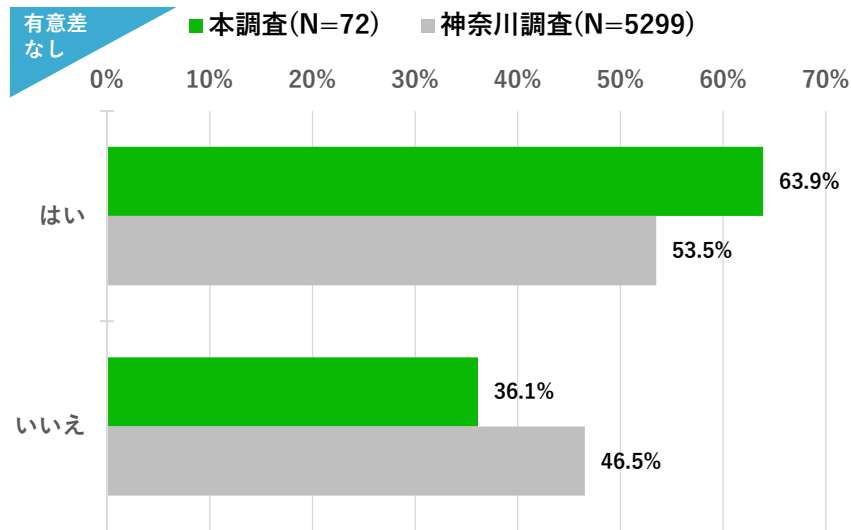
神奈川調査の結果と比較すると、本名やニックネームでは差がありませんが、市町村名や自分の顔写真は高い傾向があります。学校名や部活名は低い傾向があります。

(設問) 問 あなたは、掲示板・ブログ・SNS・メッセージサービスで自分の個人情報公開していますか。

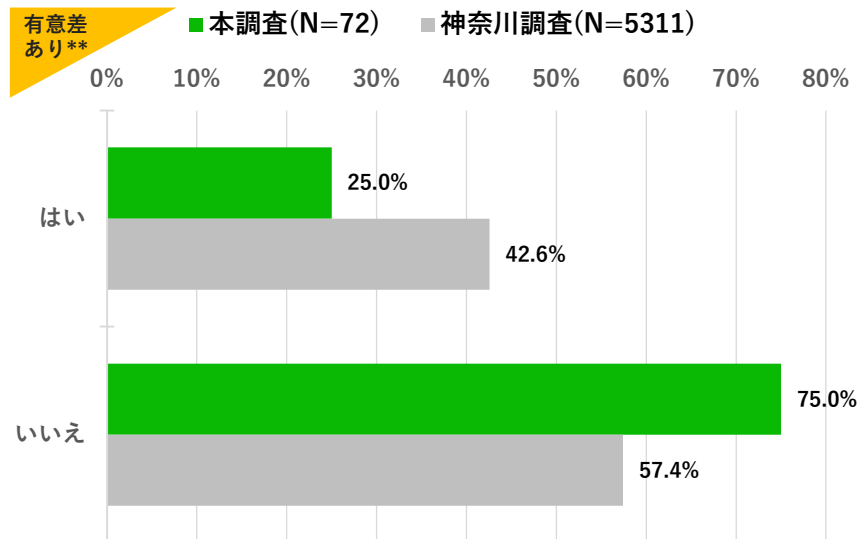
プロフィールに本名を使っている



本名が分かるようなニックネームを使っている

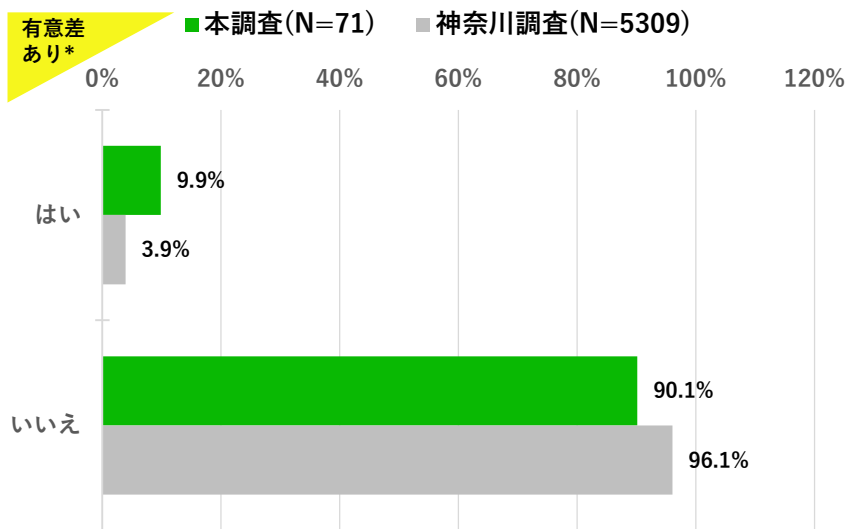


学校名や部活の名前を公開している

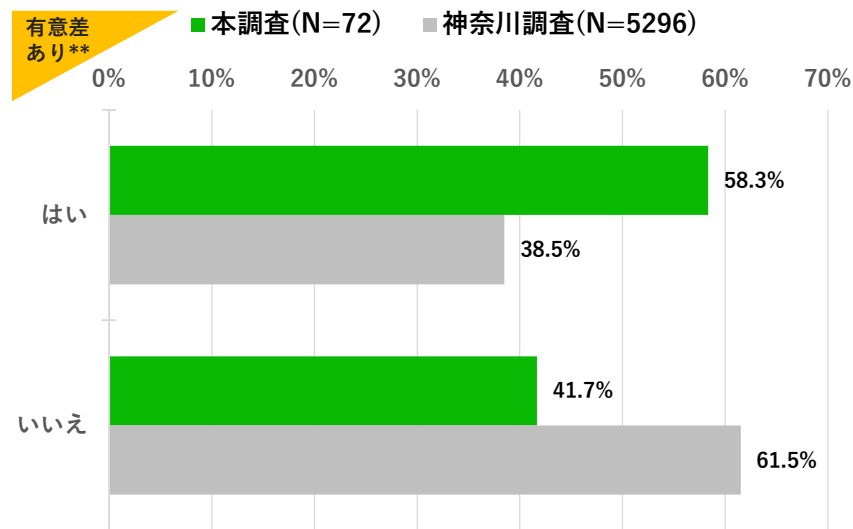


2-3 プライバシー情報の公開範囲 2

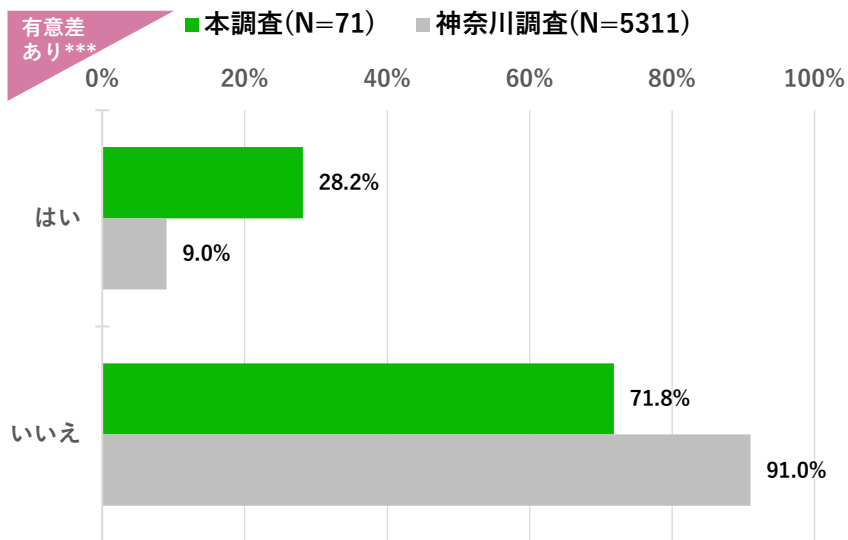
メールアドレスやLINEのIDを公開している



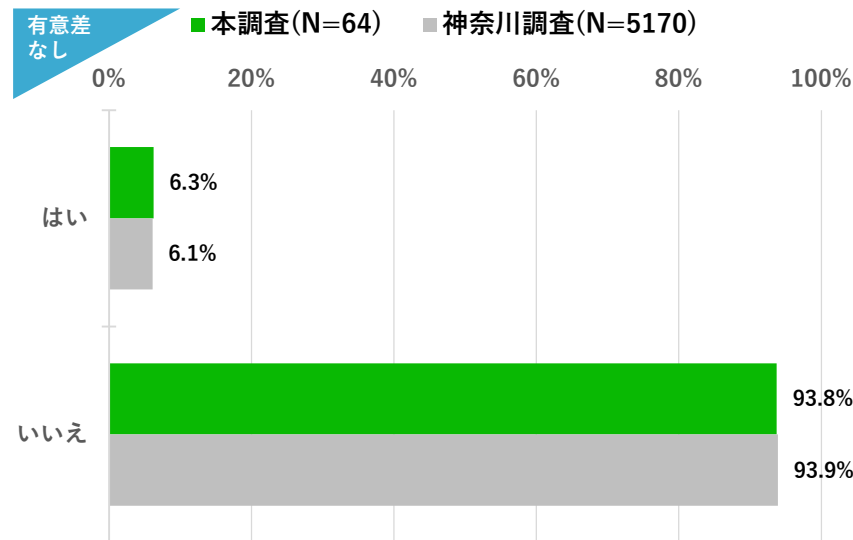
プロフィール画面に自分の顔写真を使っている



住んでいる市や町の名前を公開している

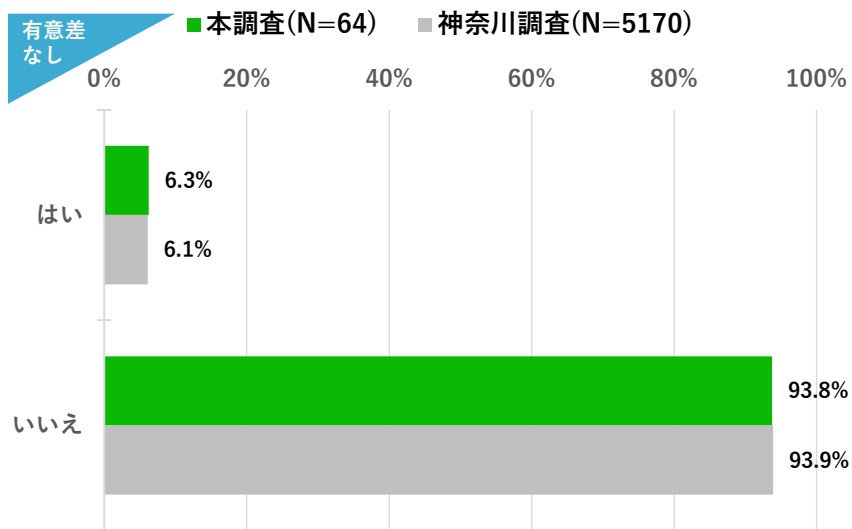


SNS・メッセージサービスを利用しているが、質問項目の情報は公開していない

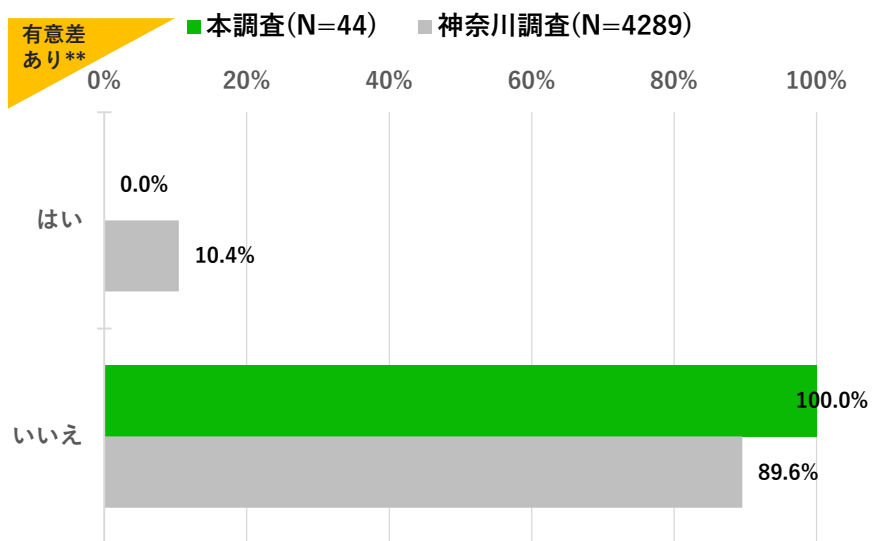


2-3 プライバシー情報の公開範囲 3

SNS・メッセージサービスを利用していない



わからない



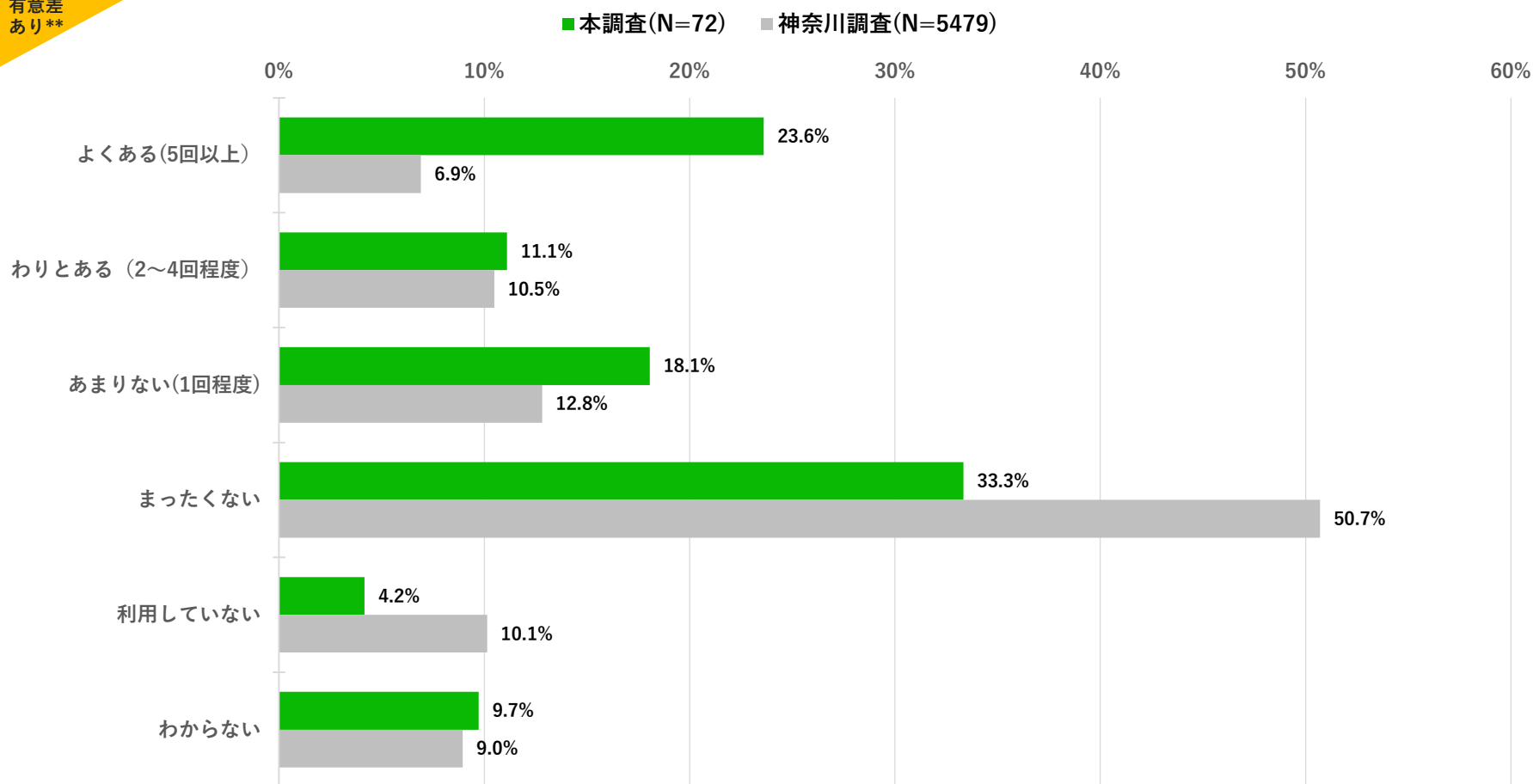
3 安全に関わること

3-1 知らない人からのメッセージを受信する割合

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、知らない人からのメッセージの受信割合は、よくある（5回以上）が23.6%、わりとある（2～4回程度）が11.1%、あまりない（1回程度）が18.1%です。この割合は、神奈川調査のよくある（5回以上）6.9%、わりとある（2～4回程度）10.5%、あまりない（1回程度）12.8%より、高くなっています。

問 あなたは、電子メール・掲示板・ブログ・SNS・メッセージサービスで、次のようなことで困ったことはありますか。(3) この1年間で「コミュニティサイト」や「無料通信アプリ」の「ID交換掲示板」を利用して、知らない人からメッセージが届いたことがありますか。

有意差
あり**



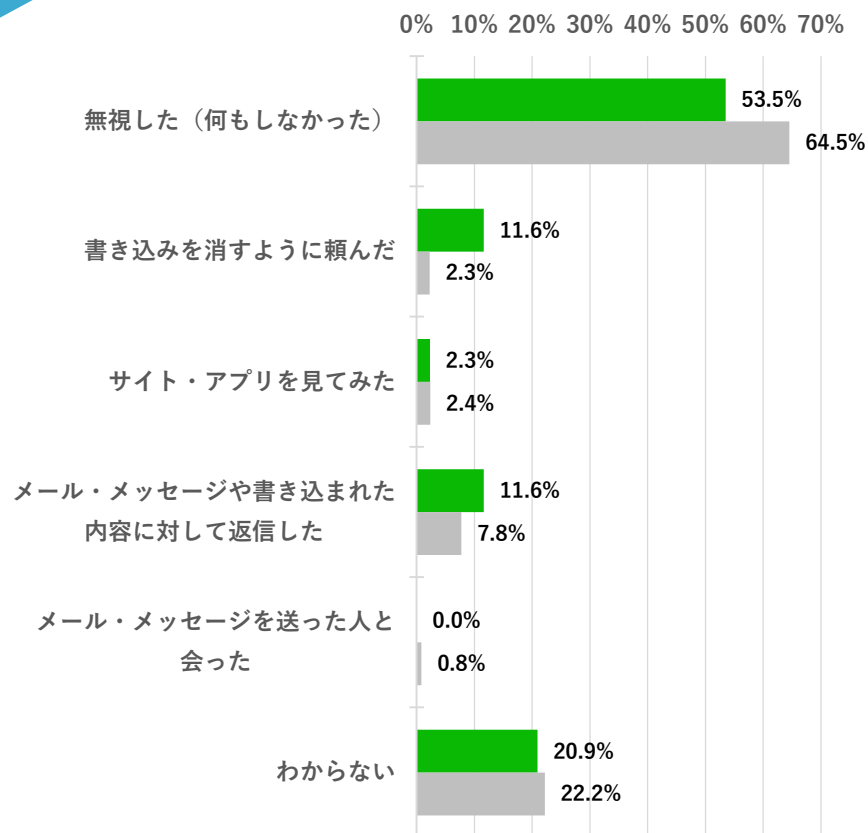
3-2 ネットトラブルに遭遇した際の対応と相談先

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、ネットに関連するトラブルに遭遇した際の対応は、無視したが53.5%と最も多く、わからないが20.9%、返信したが11.6%でした。相談先は友人が39.5%、誰にも相談しなかったが23.3%、わからないが18.6%、保護者が7.0%でした。この割合は、神奈川調査と差はありませんでした。

問 あなたは、電子メール・掲示板・ブログ・SNS・メッセージサービスで、困ったことがあったとき、どうしましたか。

有意差
なし

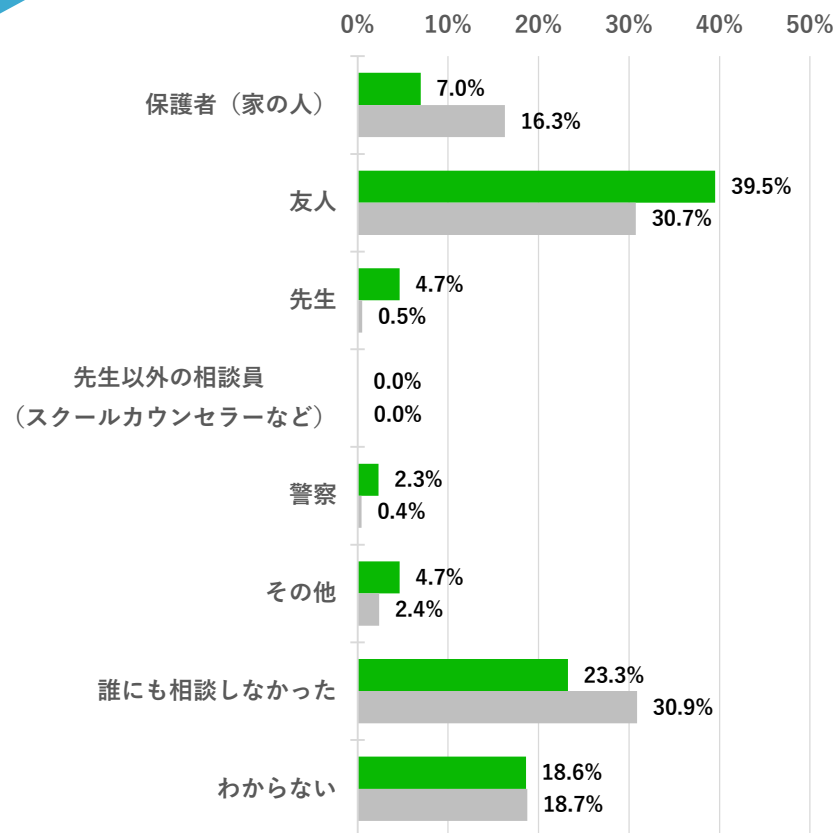
■ 本調査(N=43) ■ 神奈川調査(N=5508)



問 あなたは、電子メール・掲示板・ブログ・SNS・メッセージサービスで、困ったことがあったとき、最初に誰に相談しましたか。

有意差
なし

■ 本調査(N=43) ■ 神奈川調査(N=2348)



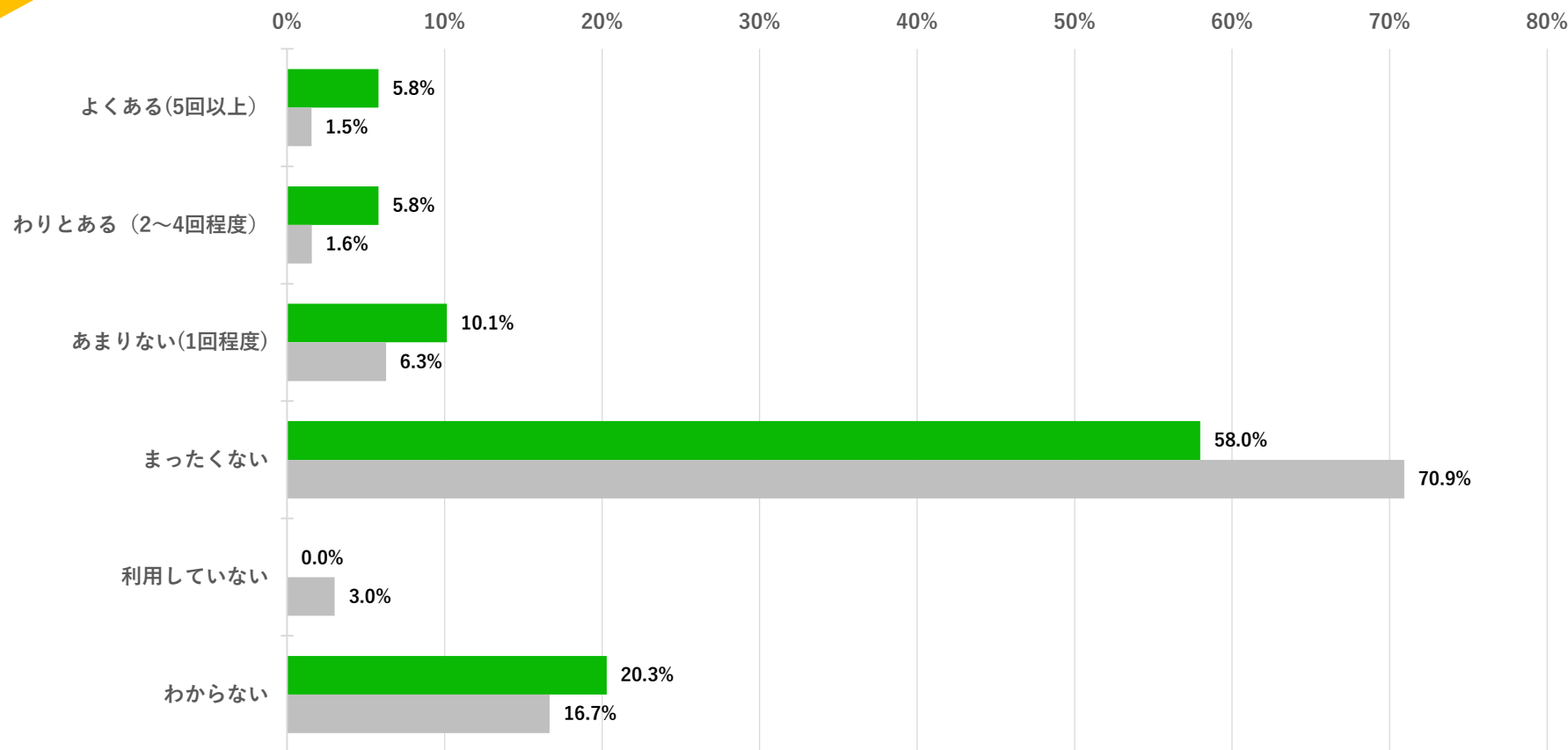
3-3 加害行動の頻度

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、暴力的表現等の加害経験の頻度は、よくある（5回以上）が5.8%、わりとある（2～4回程度）が5.8%、あまりない（1回程度）が10.1%でとなっています。この割合は、神奈川調査のよくある（5回以上）1.5%、わりとある（2～4回程度）1.6%、あまりない（1回程度）6.3%より、高くなっています。

問 この1年間であなたは、暴力的表現、悪口やいやなこと（画像を含む）が書かれた電子メールを送ったり、掲示板・ブログ・SNS・メッセージサービスに書き込んだりするなどして、相手にいやな思いをさせたことがありますか。

有意差
あり**

■ 本調査(N=69) ■ 神奈川調査(N=5227)



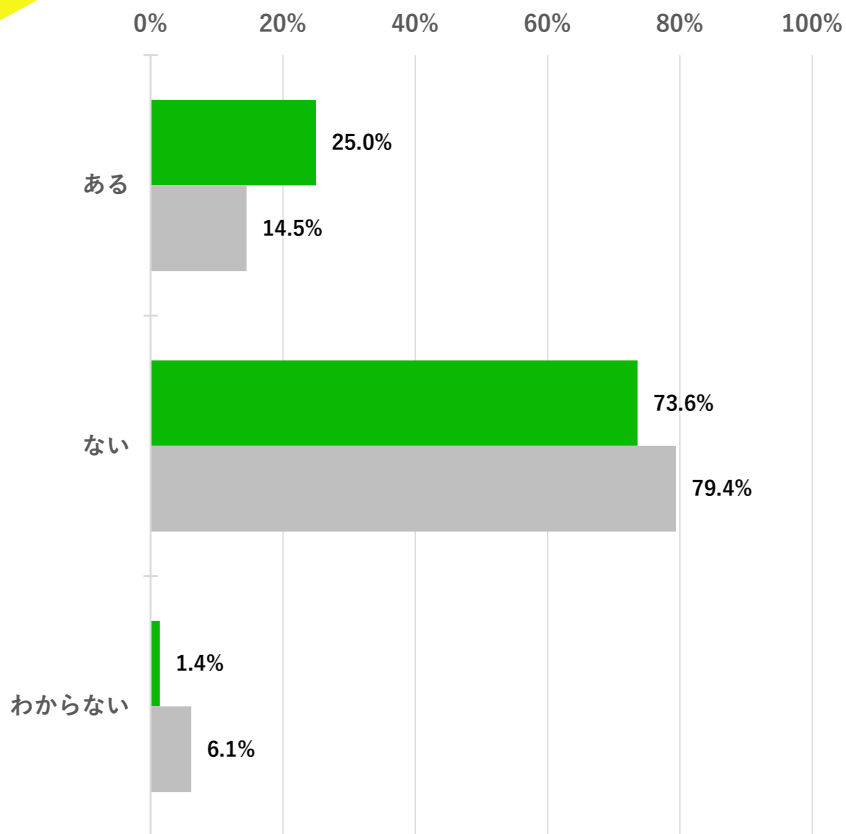
3-4 家庭内ルールの有無

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、家庭内ルールは、①利用する時間のルールが「ある」は25.0%で、神奈川調査の14.5%より高くなっています。②利用する場所のルールは12.5%です。この割合は、神奈川調査と差はありませんでした。

問 あなたの家庭では、携帯電話等やパソコンを利用するときに、以下についてのルールがありますか ①利用する時間

有意差
あり*

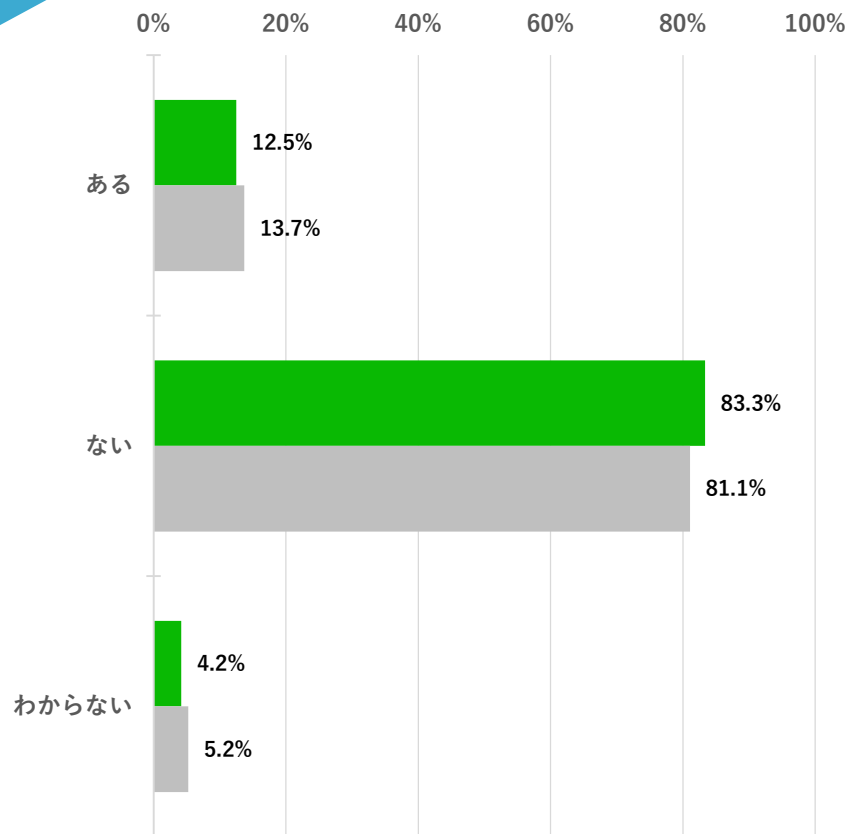
■ 本調査(N=72) ■ 神奈川調査(N=5409)



問 あなたの家庭では、携帯電話等やパソコンを利用するときに、以下についてのルールがありますか ②利用する場所

有意差
なし

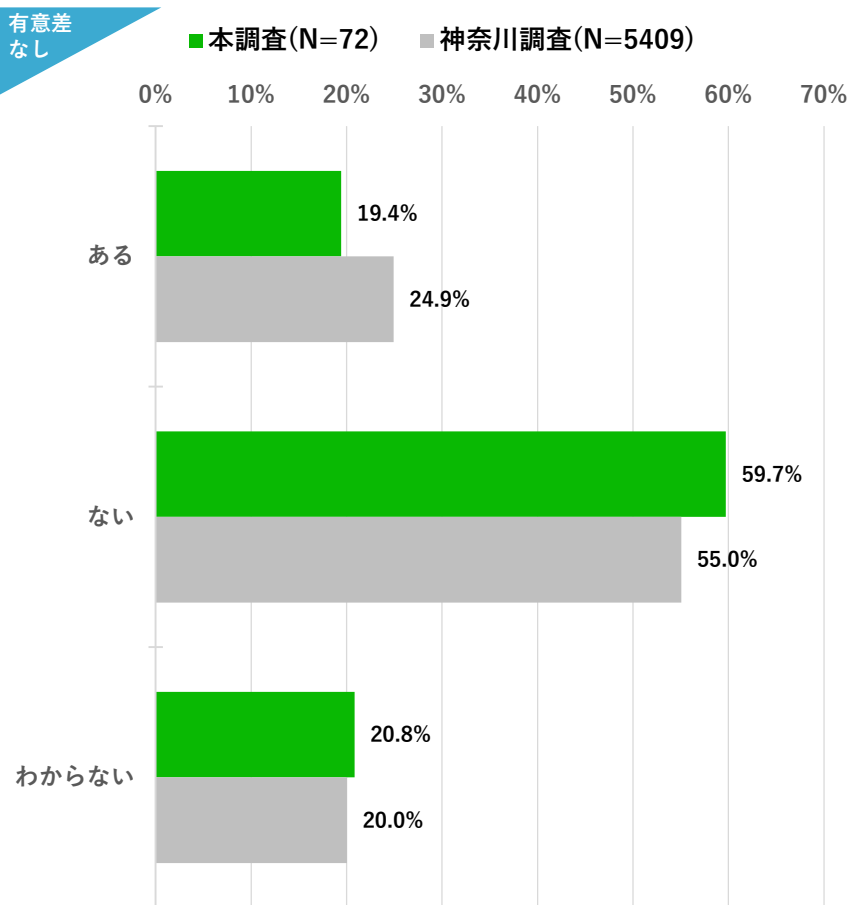
■ 本調査(N=72) ■ 神奈川調査(N=5409)



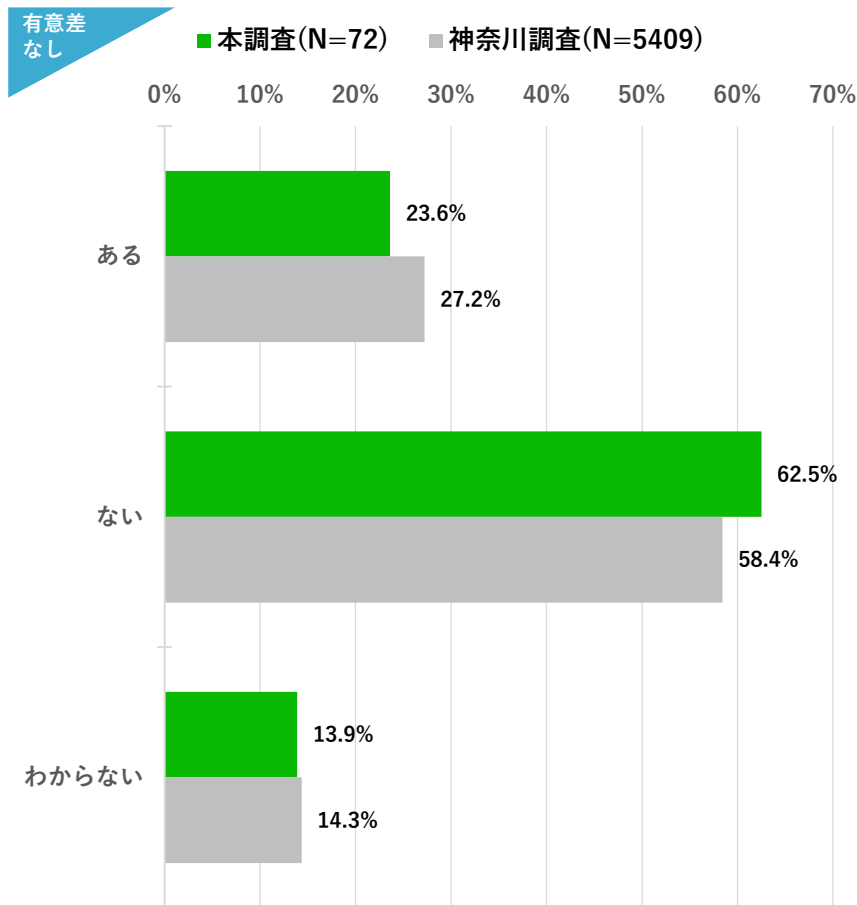
3-4 家庭内ルールの有無2

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、家庭内ルールは、③利用料金の利用限度が「ある」は19.4%、④インターネットの利用制限のルールが「ある」は23.6%です。この割合は、神奈川調査と差はありませんでした。

③利用料金の限度額



④インターネットの利用制限

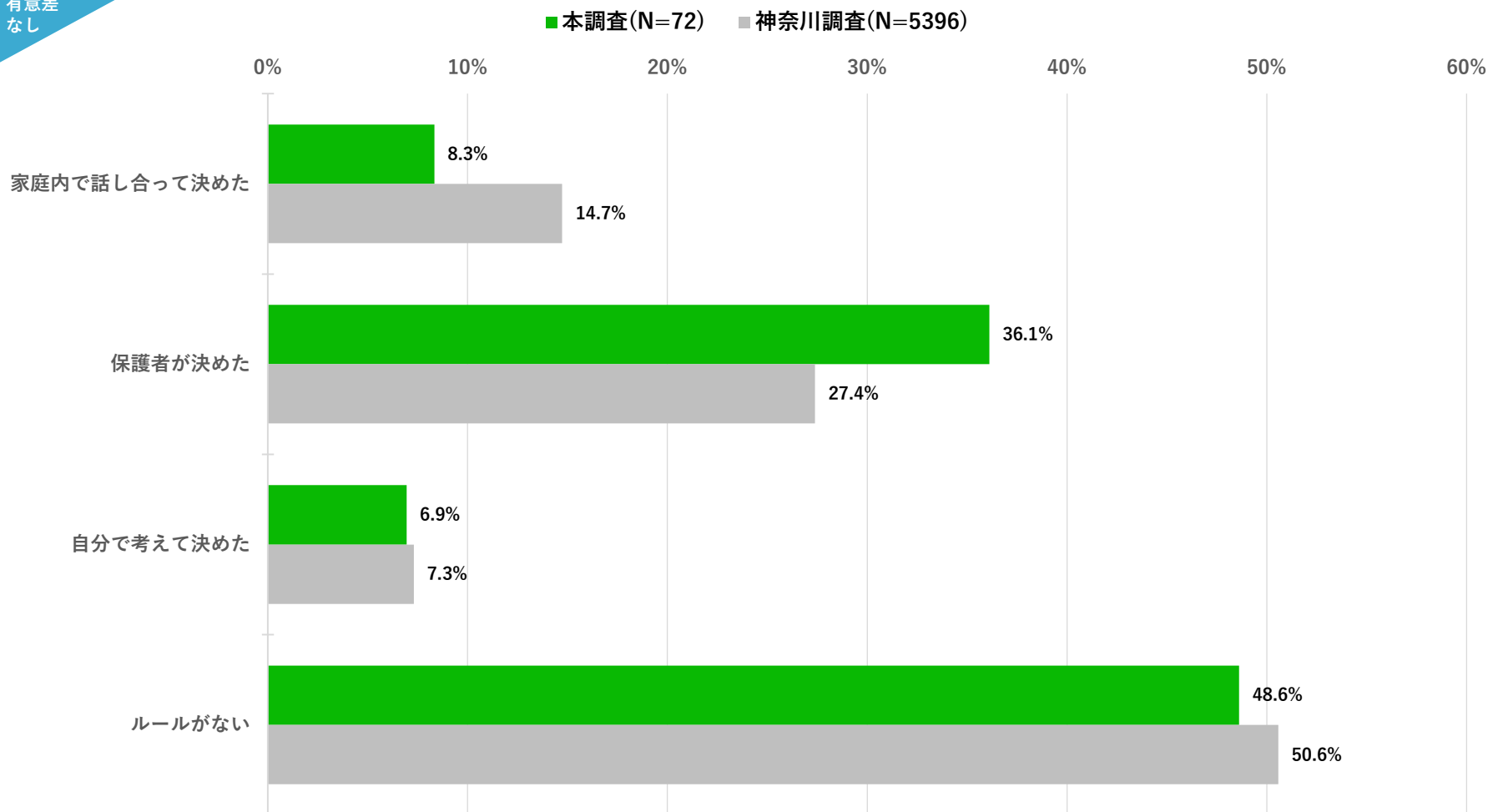


3-5 家庭内ルール決め方

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、家庭内ルールの決め方は、話し合って決めたは8.3%、保護者が決めたは36.1%、自分で考えて決めたは6.9%、ルールがないが48.6%となっています。この割合は、神奈川調査と差はありませんでした。

問 携帯電話等やパソコンを利用するときの家庭でのルールはどのように決めましたか。

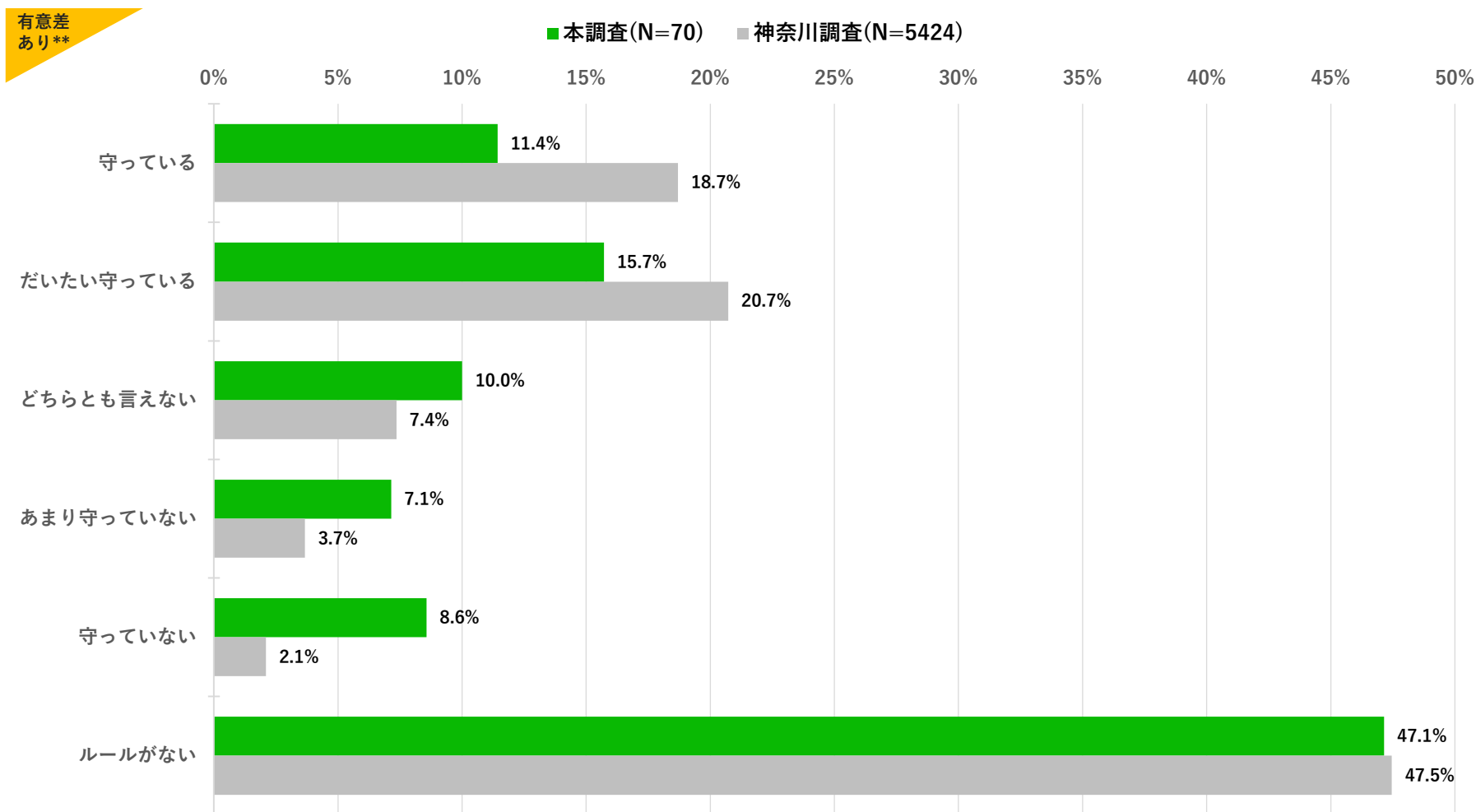
有意差
なし



3-6 家庭内ルールの遵守割合

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果は、家庭内ルールの順守割合は、守っているが11.4%、だいたい守っているが15.7%です。神奈川調査の守っている18.7%、だいたい守っている20.7%より、低い傾向にあります。

問 あなたは家庭内で決められた携帯電話等やパソコンを利用するときのルールを守っていますか。



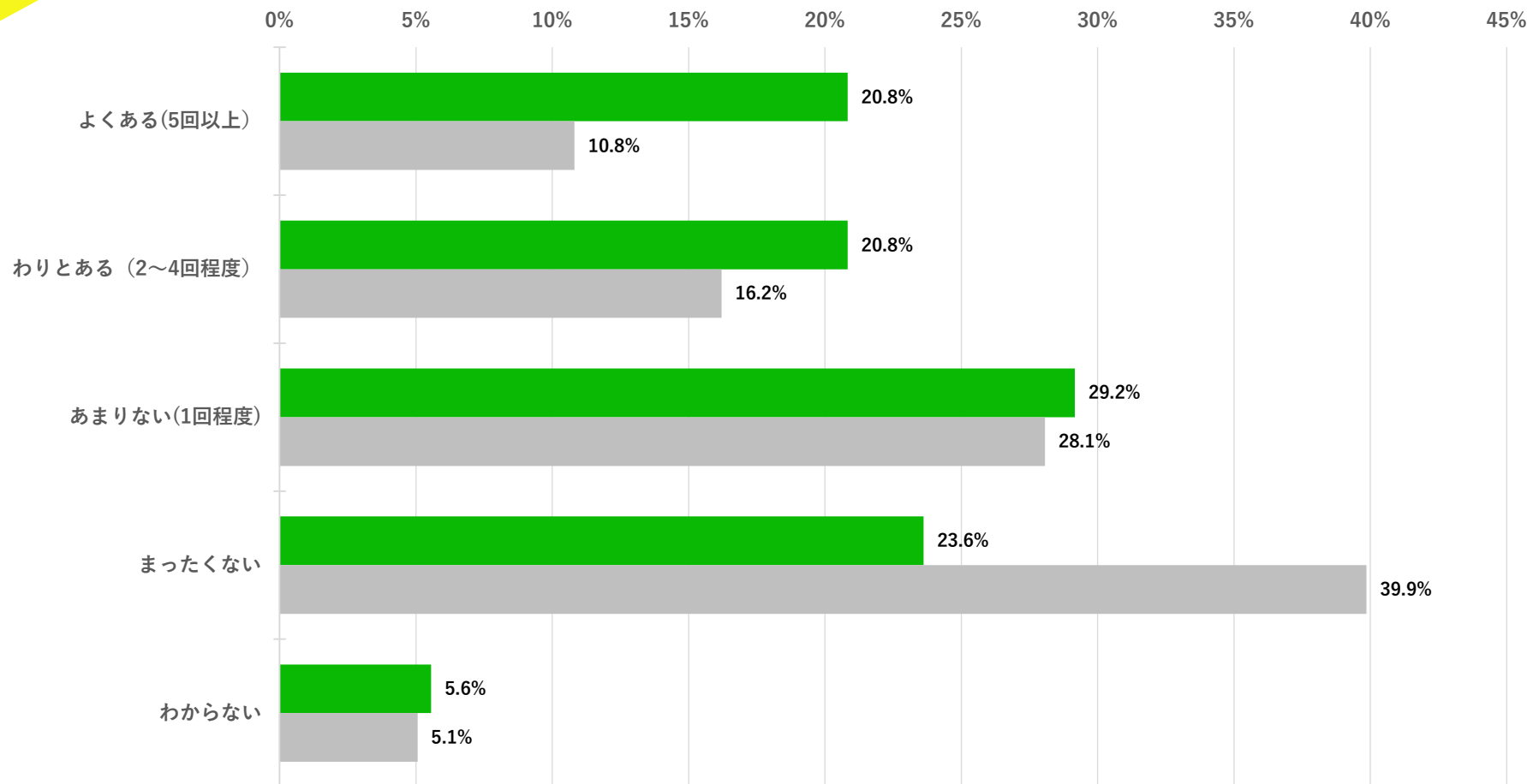
3-7 保護者からの注意頻度

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、保護者からの注意頻度は、よくある（5回以上）が20.8%、わりとある（2～4回程度）が20.8%、あまりない（1回程度）が29.2%です。神奈川調査のよくある（5回以上）10.8%、わりとある（2～4回程度）16.2%、あまりない（1回程度）28.1%より、高い割合になっています。

問 この1年間で、携帯電話等やパソコンの使い方（利用時間や利用するサイトなど）について、保護者（家の人）から注意を受けたことがありますか。

有意差あり*

■ 本調査(N=72) ■ 神奈川調査(N=5437)

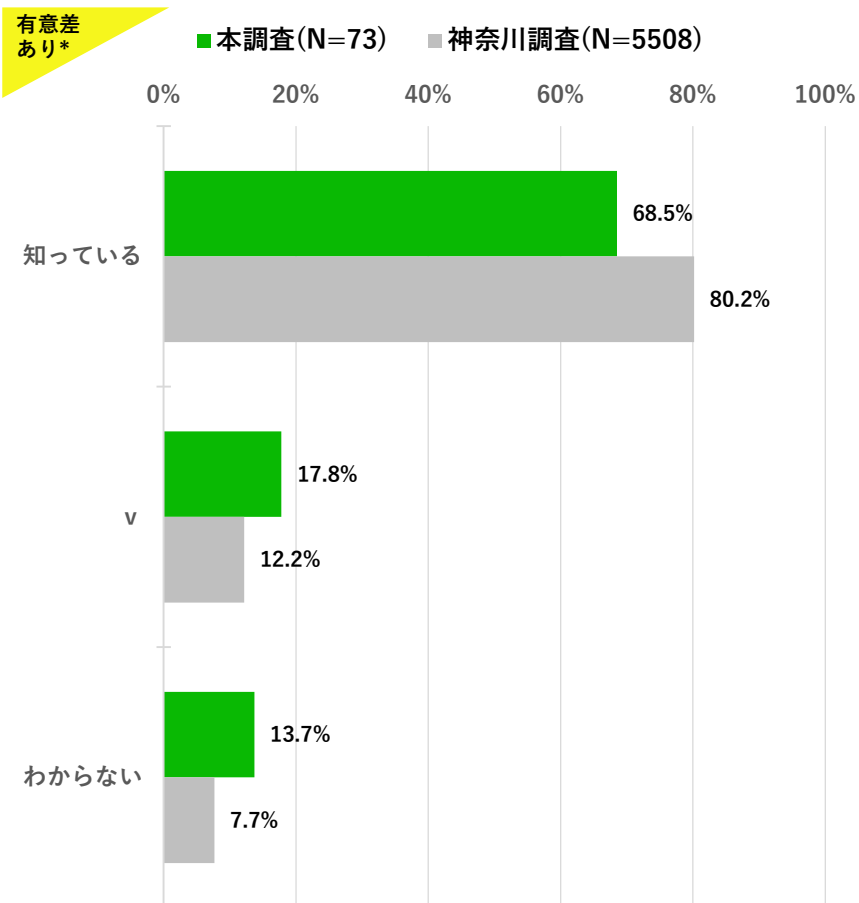


4 情報モラルに関わること

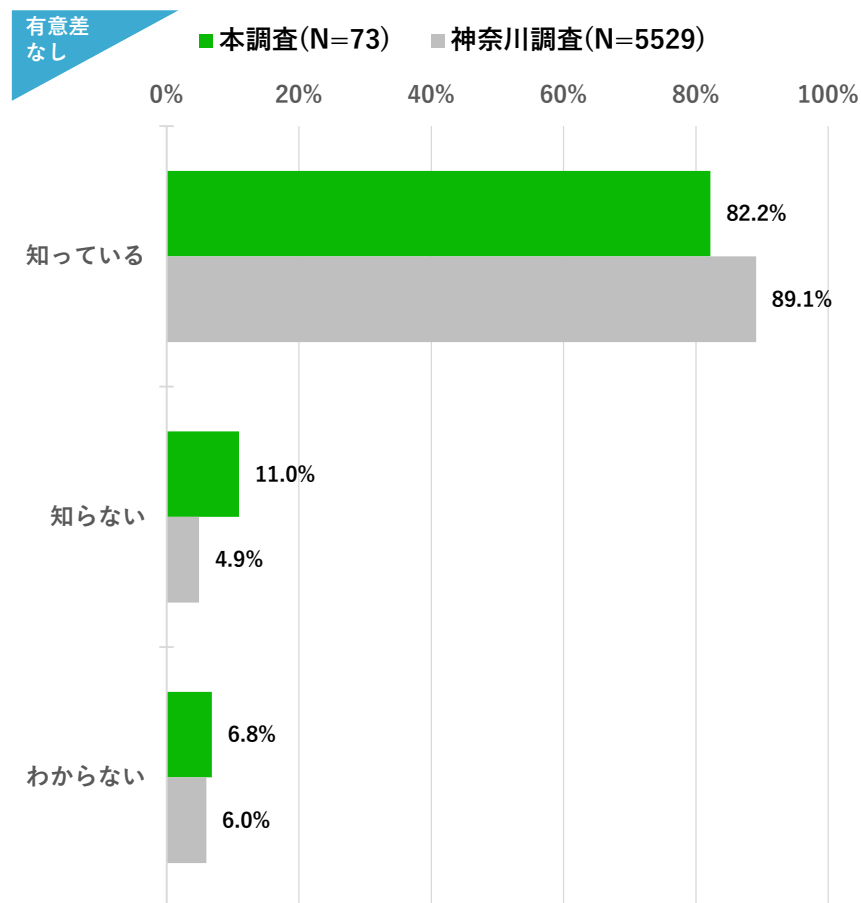
4-1 プライバシー侵害に関する法的理解度

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、法的理解度は、悪口などが犯罪にあたることを知っている割合は68.5%と、神奈川調査の80.2%よりやや低くなっています。一方で他人の写真の無断利用に関する権利侵害可能性を知っている割合は82.2%で、神奈川調査とは差がありませんでした。

問 インターネット上の掲示板・ブログ・SNS・メッセージサービスに、他人の悪口などを書き込んだり、いやがらせの電子メールを送ったりすることは、その内容によっては犯罪にあたることを知っていますか。



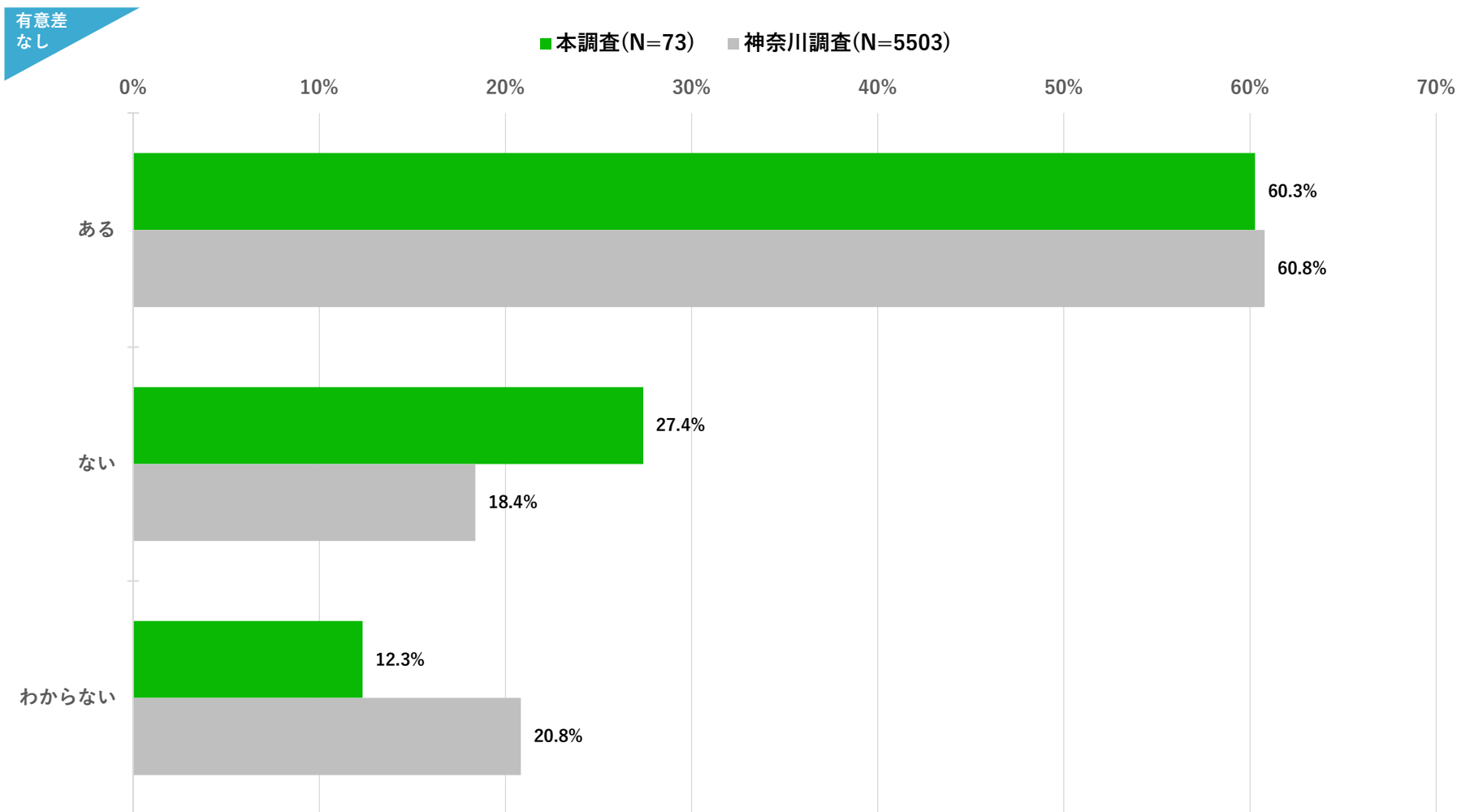
問 他人の写真を勝手に撮ることやその画像をインターネットに掲載することは、肖像権の侵害になることがあることを知っていますか。



4-2 情報モラル教育の受講経験の有無

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、情報モラル教育を受講した割合は60.3%でした。この割合は、神奈川調査とは差はありませんでした。

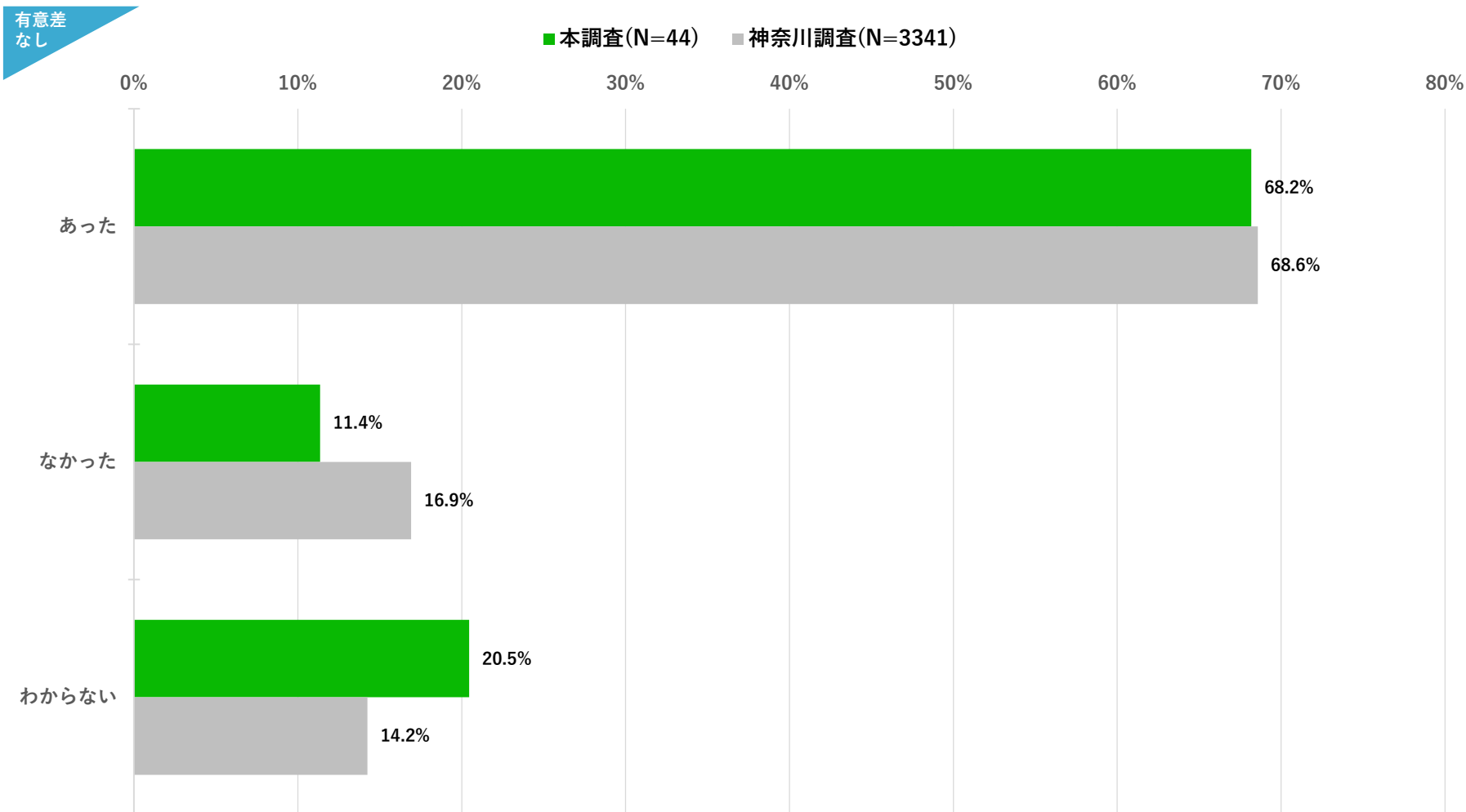
問 この1年間で、学校などで携帯電話等やインターネットに関する講習を受けたことがありますか。



4-3 情報モラル教育における気づきの有無

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、情報モラル教育で気づきがあった割合は68.2%でした。この割合は、神奈川調査とは差はありませんでした。

問 この1年間で、学校などで携帯電話等やインターネットに関する講習で、自分なりに気づいたことはありましたか。

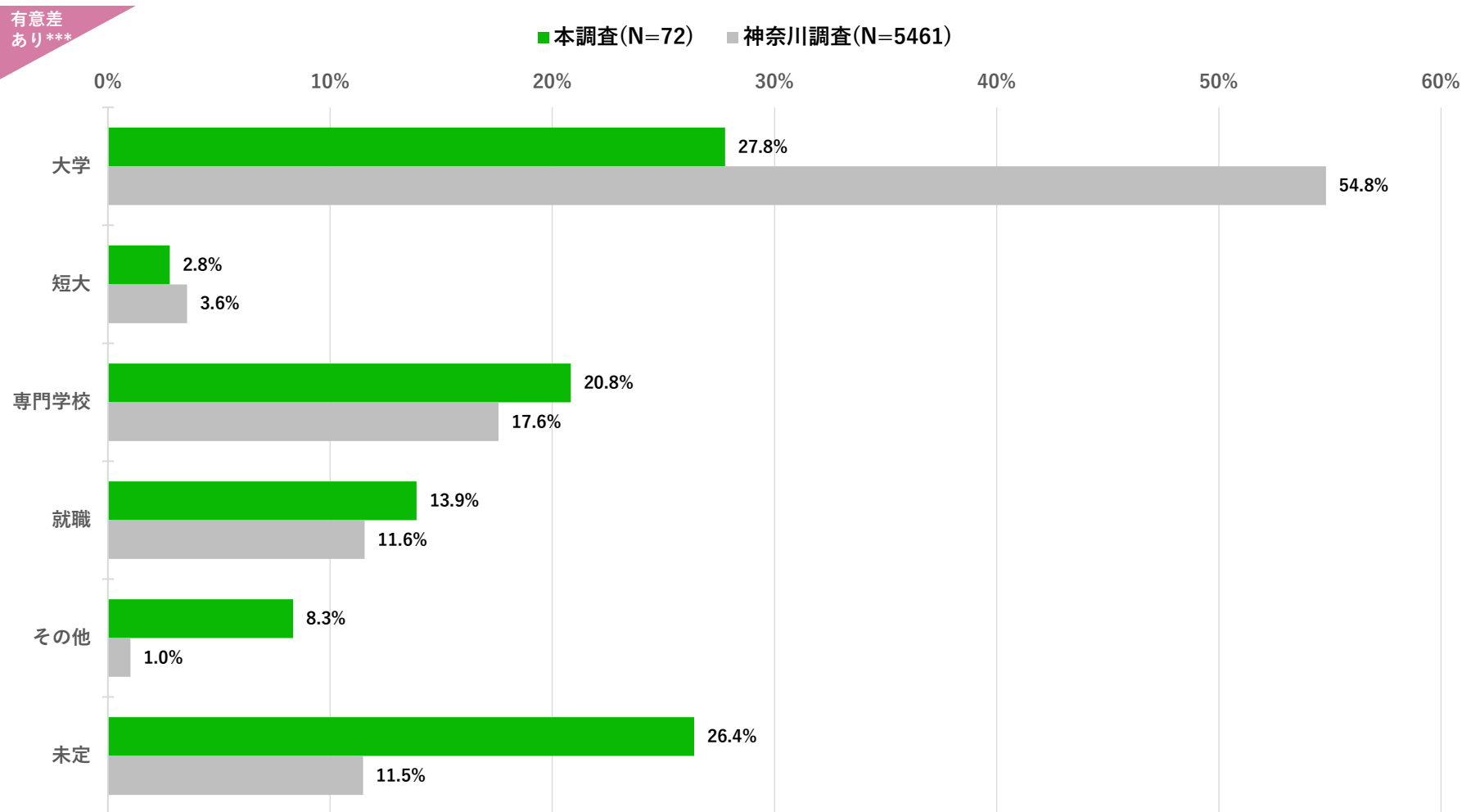


5 卒業後の進路や友人関係

5-1 卒業後の進路

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、卒業後の進路は、大学進学希望の割合が27.8%となっています。この割合は、神奈川調査の54.8%よりかなり低くなっています。一方で未定の割合が26.4%でした。この割合は、神奈川調査の11.5%よりかなり高くなっています。

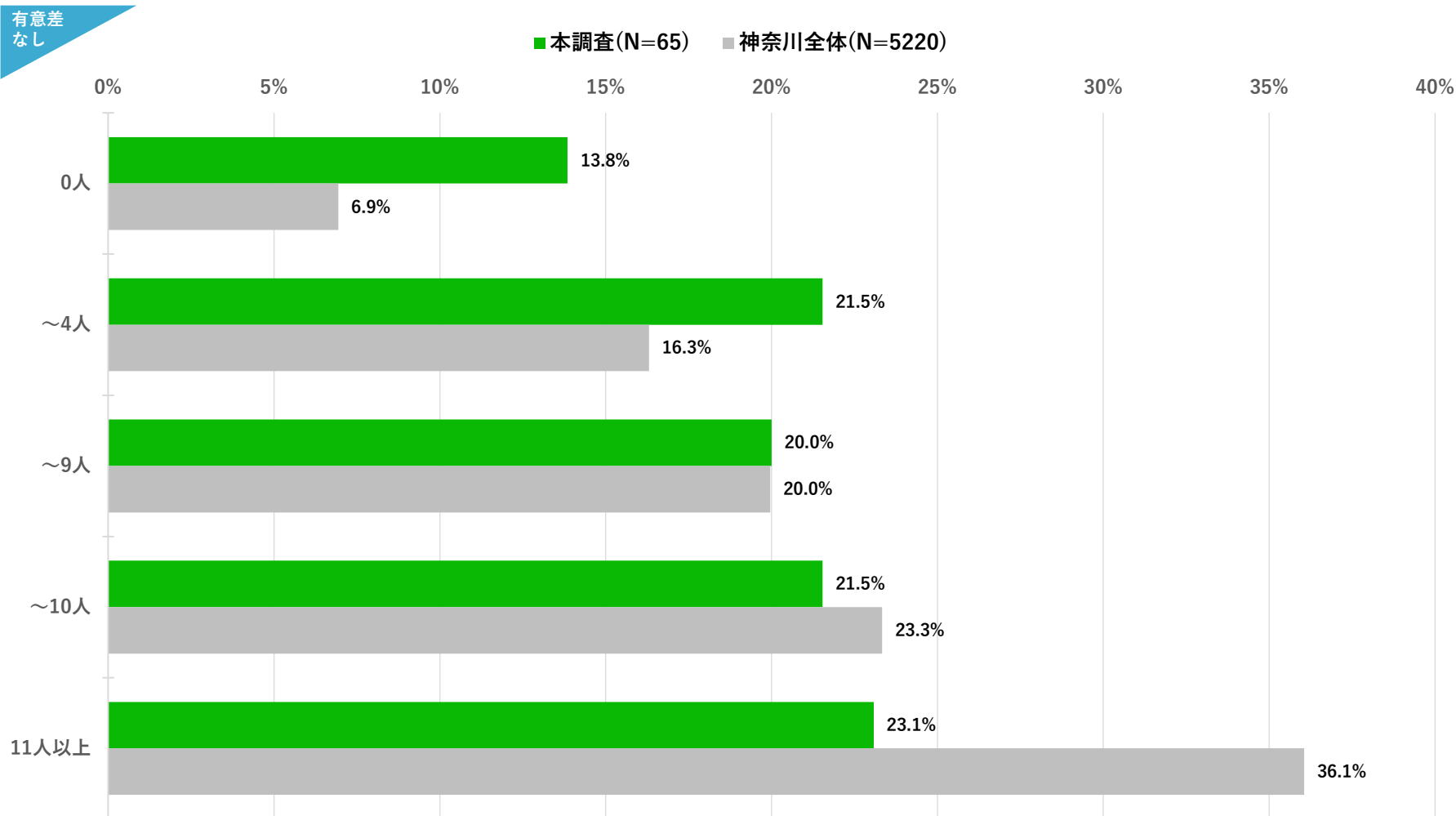
問 あなたが今考えている、卒業後の進路は、次のうちどれですか。



5-2 学校内友達数

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、学校内友達数は、0人が13.8%、1人～4人が21.5%、5人～9人が20.0%、10人が21.5%、11人以上が23.1%です。この割合は、神奈川調査とは差はありませんでした。

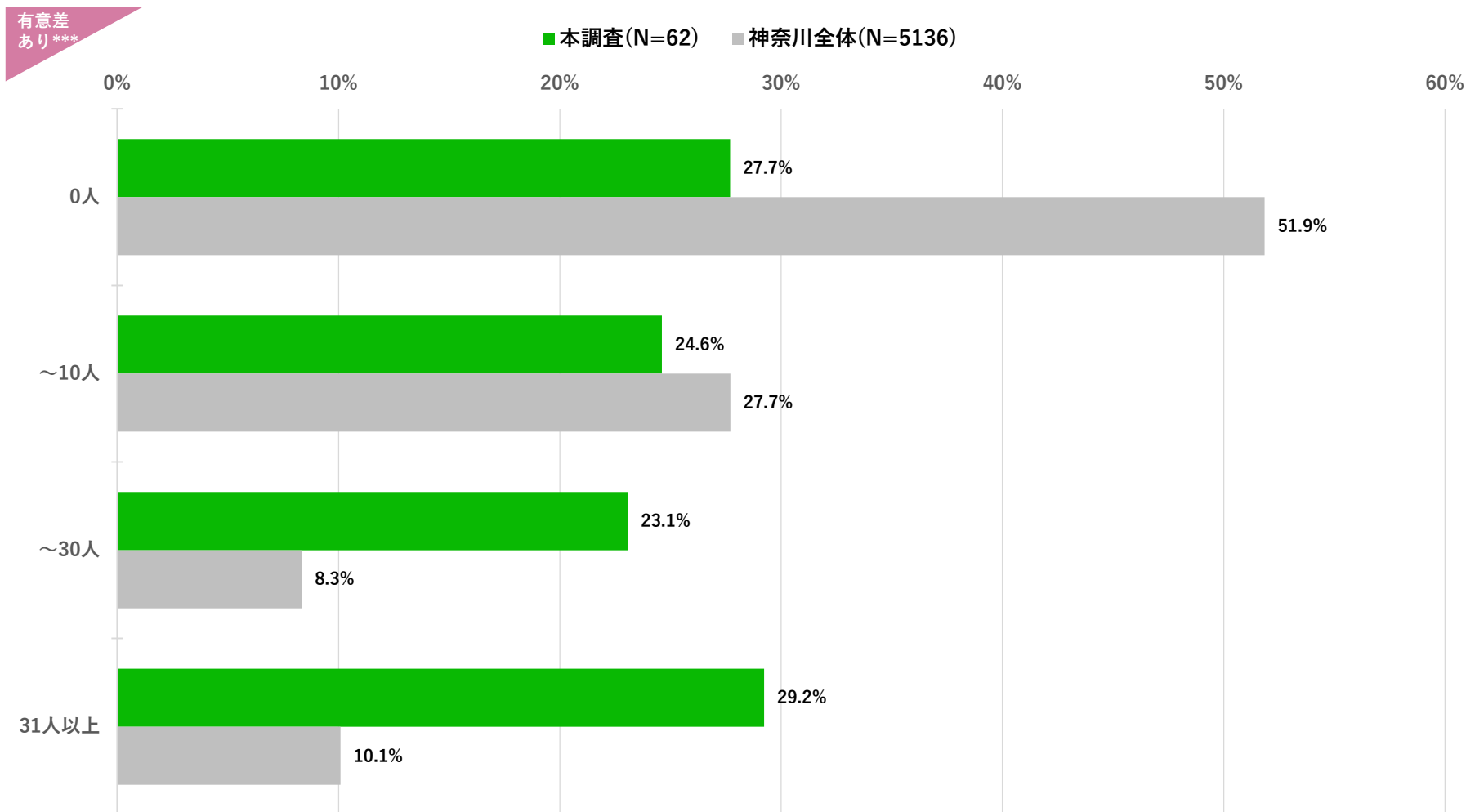
問 あなたには、お互いに卒業後も付き合っていきたいと思っている友人があなたの今の学年に何人いますか。



5-3 ネット友達数

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、ネットがきっかけで知り合った友達数は、0人が27.7%、1人～10人が24.6%、11人から30人が23.1%、31人以上が29.2%で、平均が34.4人となっています。この割合は、神奈川調査の平均15.7人より多くなっています*。

問 あなたには、ネット（SNS・メッセージサービスやネットゲーム、掲示板など）がきっかけで知り合った友達が何人ぐらいいますか。

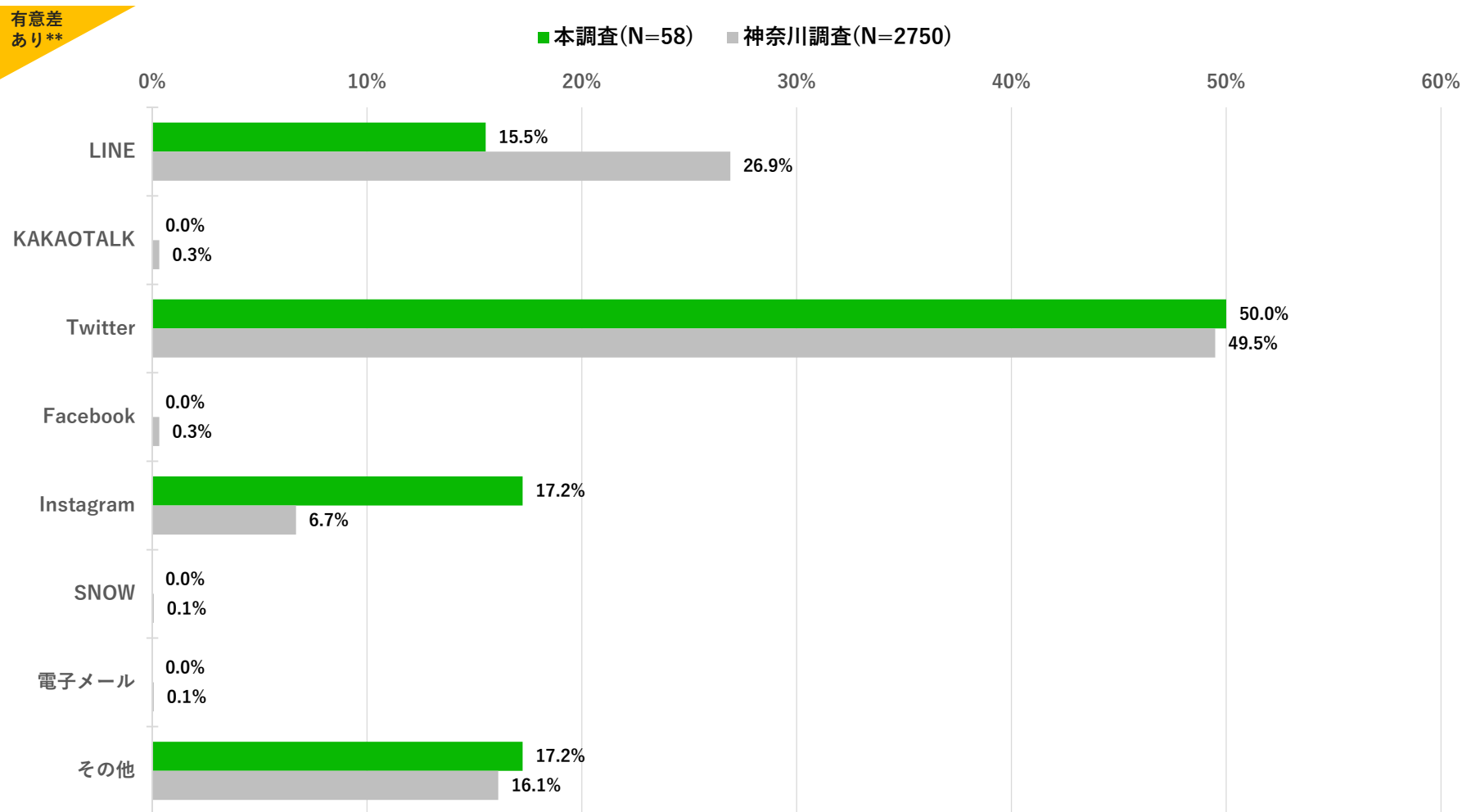


*平均は500人以上の回答を無効とした上で算術平均を算出

5-4 ネット友達とつながった発端となったサービス

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、ネット友達と知り合ったサービスの割合は、Twitterが最も多く50.0%です。この割合は、神奈川調査と差がありません。一方で、LINEは15.5%で、神奈川調査の26.9%より低く、Instagramが17.2%で、神奈川調査の6.7%より高くなっています。

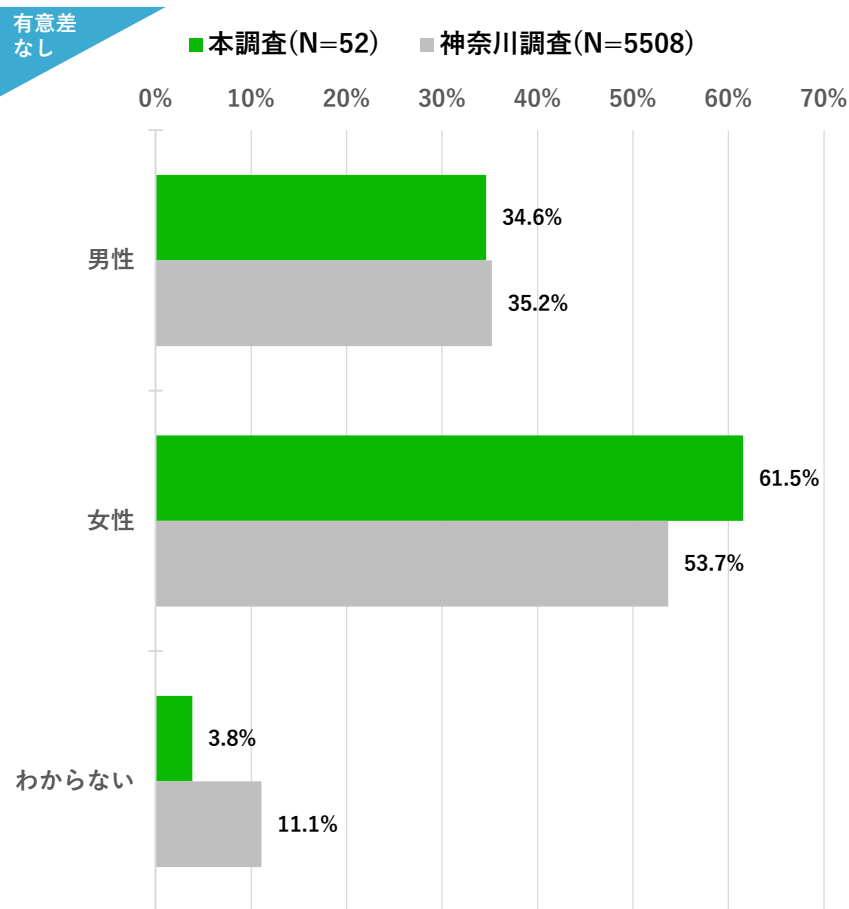
問 ネットがきっかけで知り合った友達の中で、「最も親しくなった人」と知り合ったきっかけのサービスはどれですか。



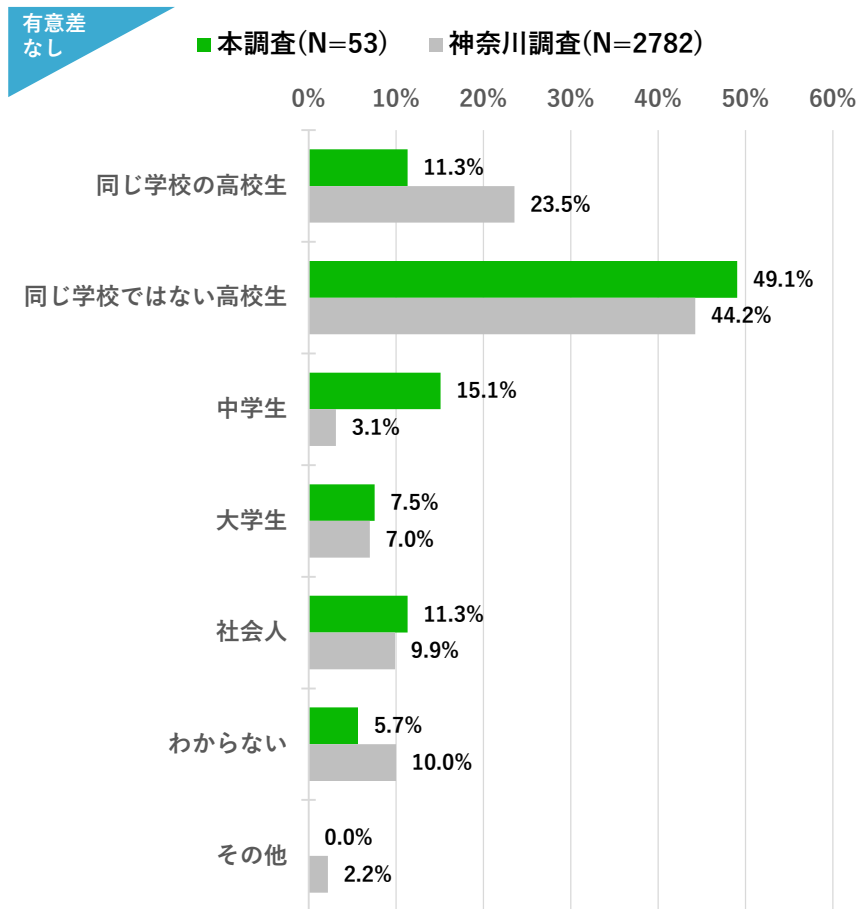
5-5 ネット友達の性別と属性

本調査と神奈川調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、ネット友達の性別は、男性が34.6%、女性が61.5%となっています。属性は同じ学校の友達は11.3%、同じ学校でない高校生は49.1%、中学生が15.1%、大学生が7.5%、社会人が11.3%、わからないが5.7%です。この割合は、神奈川調査と差はありませんでした。

問 あなたがネットで知り合って、最も親しくなった友達の性別をおしえてください。



問 あなたがネットで知り合って、最も親しくなった友達はどのような人ですか。



6 RISTEX調査との比較

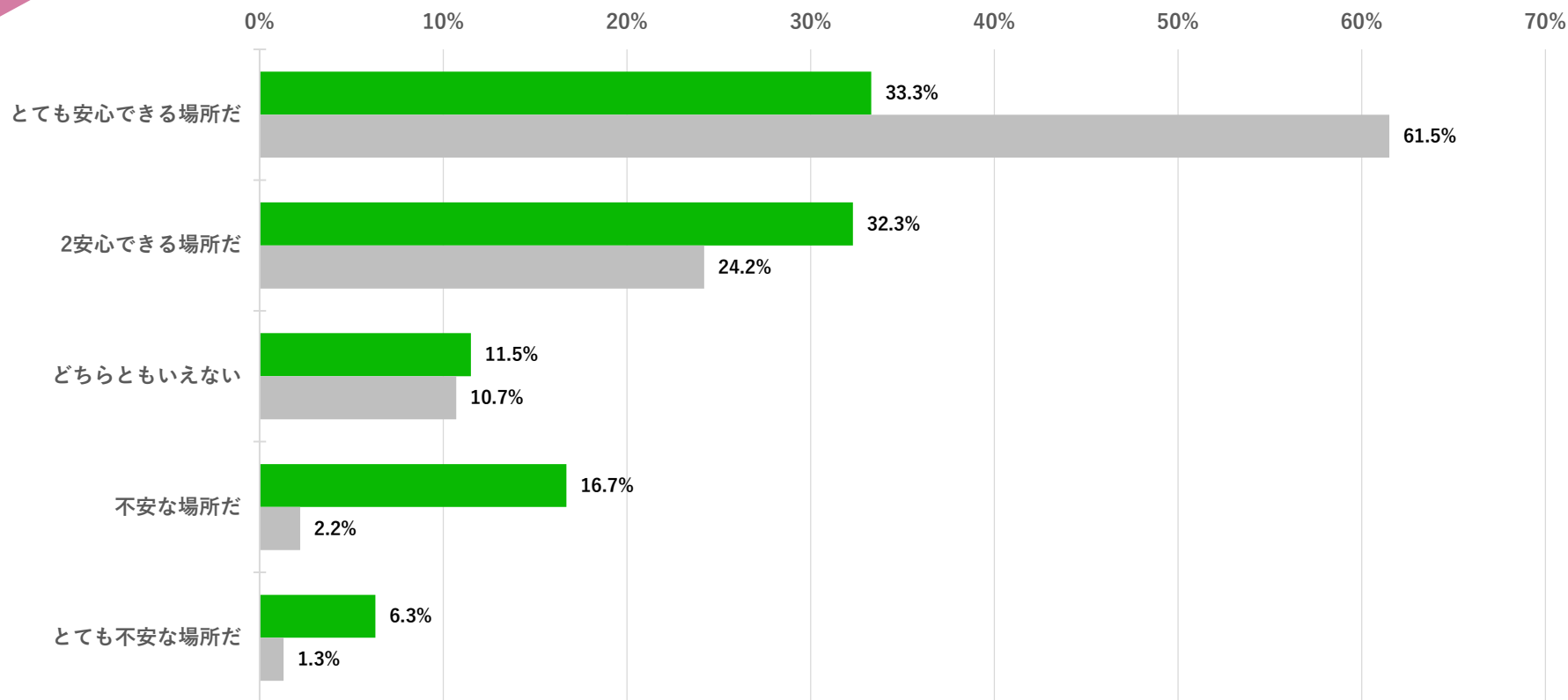
6-1 自宅での安心感

本調査とRISTEX調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、自宅での安心感は、とても安心できる場所は33.3%でした。この割合は、RISTEX調査の61.5%よりかなり低くなっています。

問 あなたにとって、自宅は安心できる場所でしたか。

有意差
あり ***

■ 本調査 (N=96) ■ RISTEX調査 (N=5828)

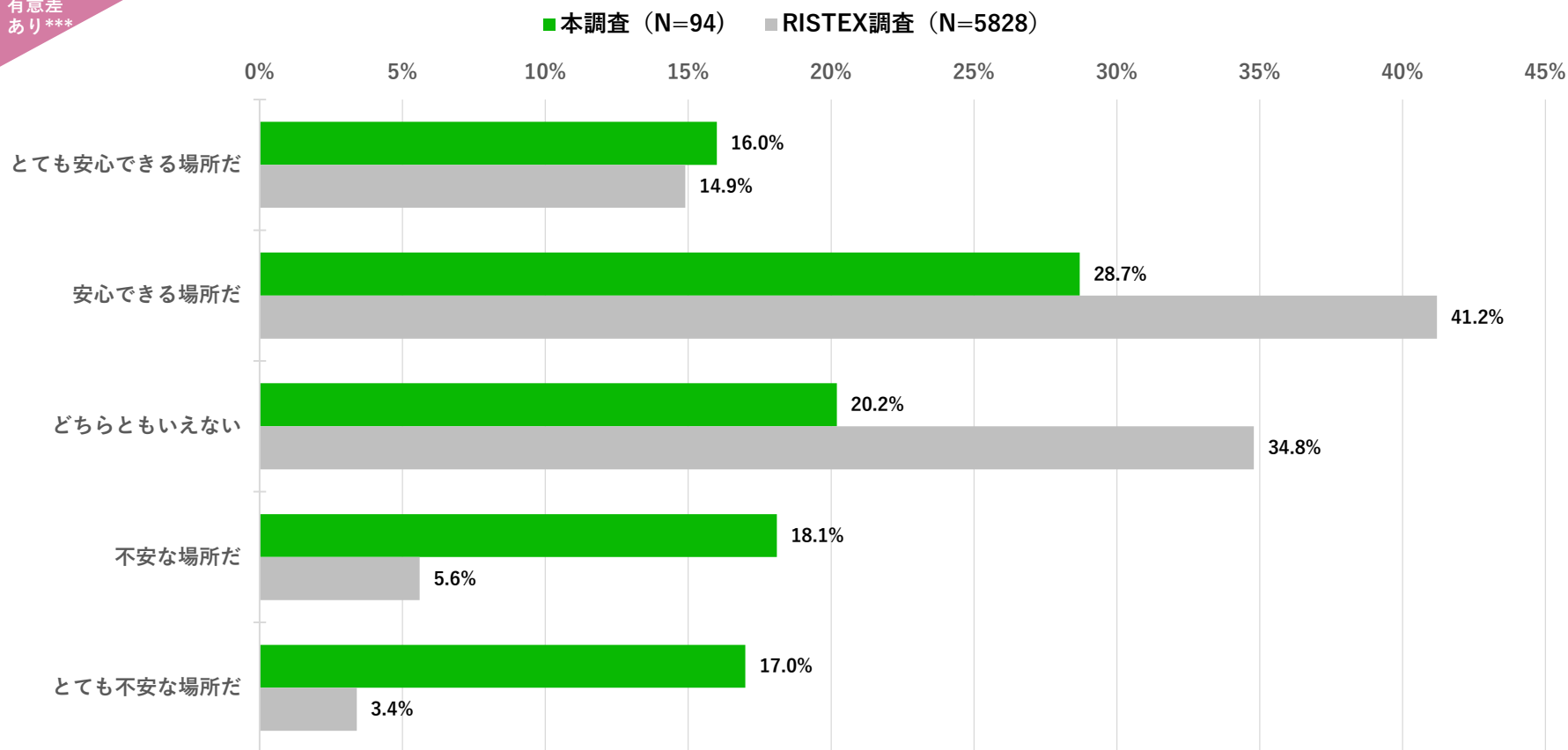


6-2 学校での安心感

本調査とRISTEX調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、学校での安心感は、安心できる場所は28.7%、どちらともいえないは20.2%でした。この割合は、RISTEX調査より、かなり低くなっています。逆に、不安な場所は18.1%、とても不安な場所は17.0%となり、RISTEX調査より、かなり高くなっています。

問 あなたにとって、学校は安心できる場所でしたか。

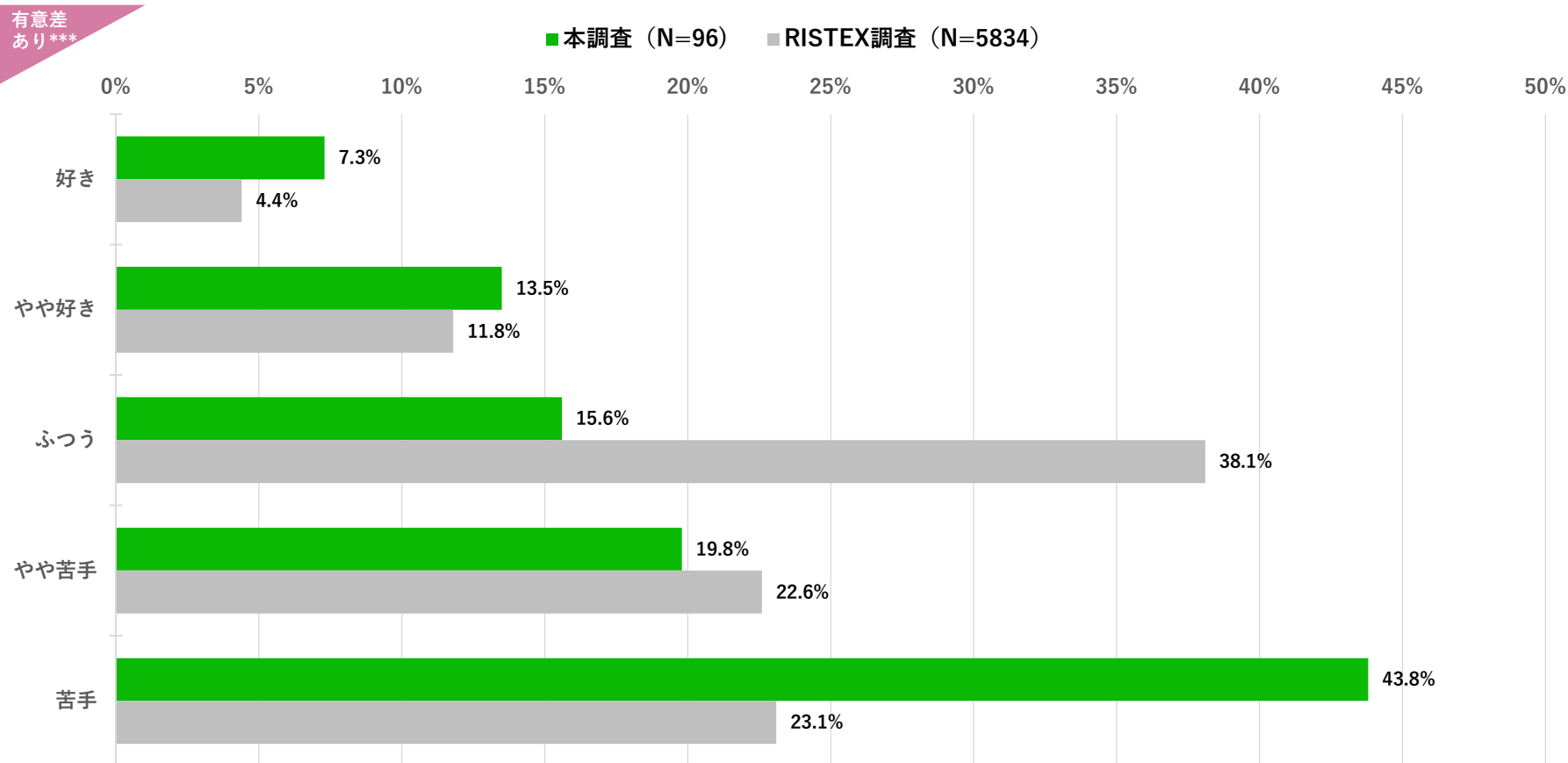
有意差
あり ***



6-3 勉強が好きか否か

本調査とRISTEX調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、勉強の好き嫌いは、好きが7.3%、やや好きが13.5%です。ふつうは15.6%、やや苦手は19.8%、苦手は43.8%です。ふつうの割合は、RISTEX調査の38.1%よりかなり低く、苦手の割合は、RISTEX調査の23.1%より、かなり高くなっています。

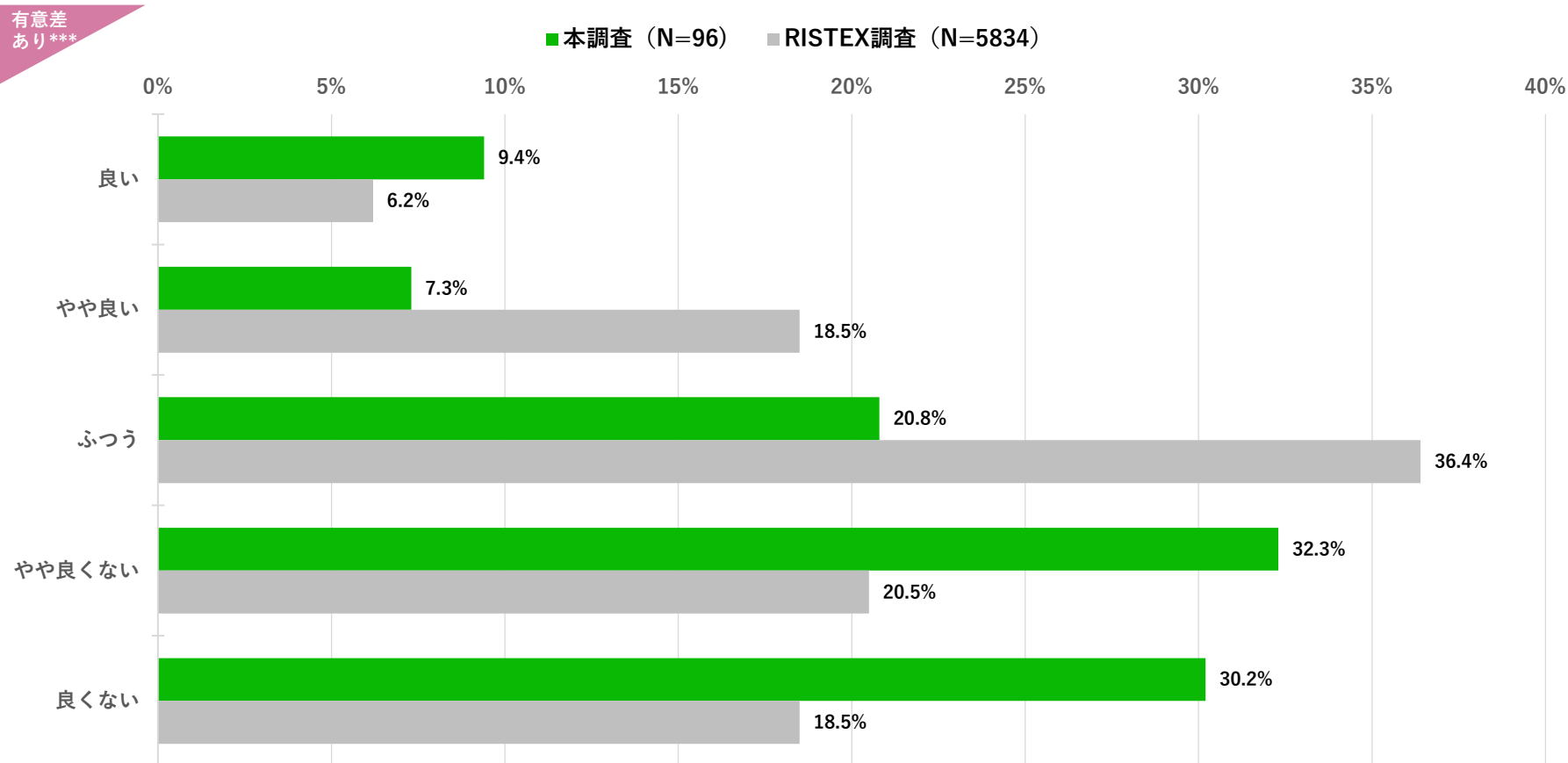
問 あなたは、勉強が好きですか。



6-4 成績

本調査とRISTEX調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、成績は、良いが9.4%、やや良いが7.3%、ふつうが20.8%、やや良くないが32.3%、良くないが30.2%でした。RISTEX調査と比較すると、やや良いの18.5%、ふつうの36.4%より、かなり低く、やや良くないの20.5%、良くないの18.3%より、かなり高くなっています。

問 あなたの学校での成績は、学年の中で順位をつけるとすると、どれくらいだと思いますか

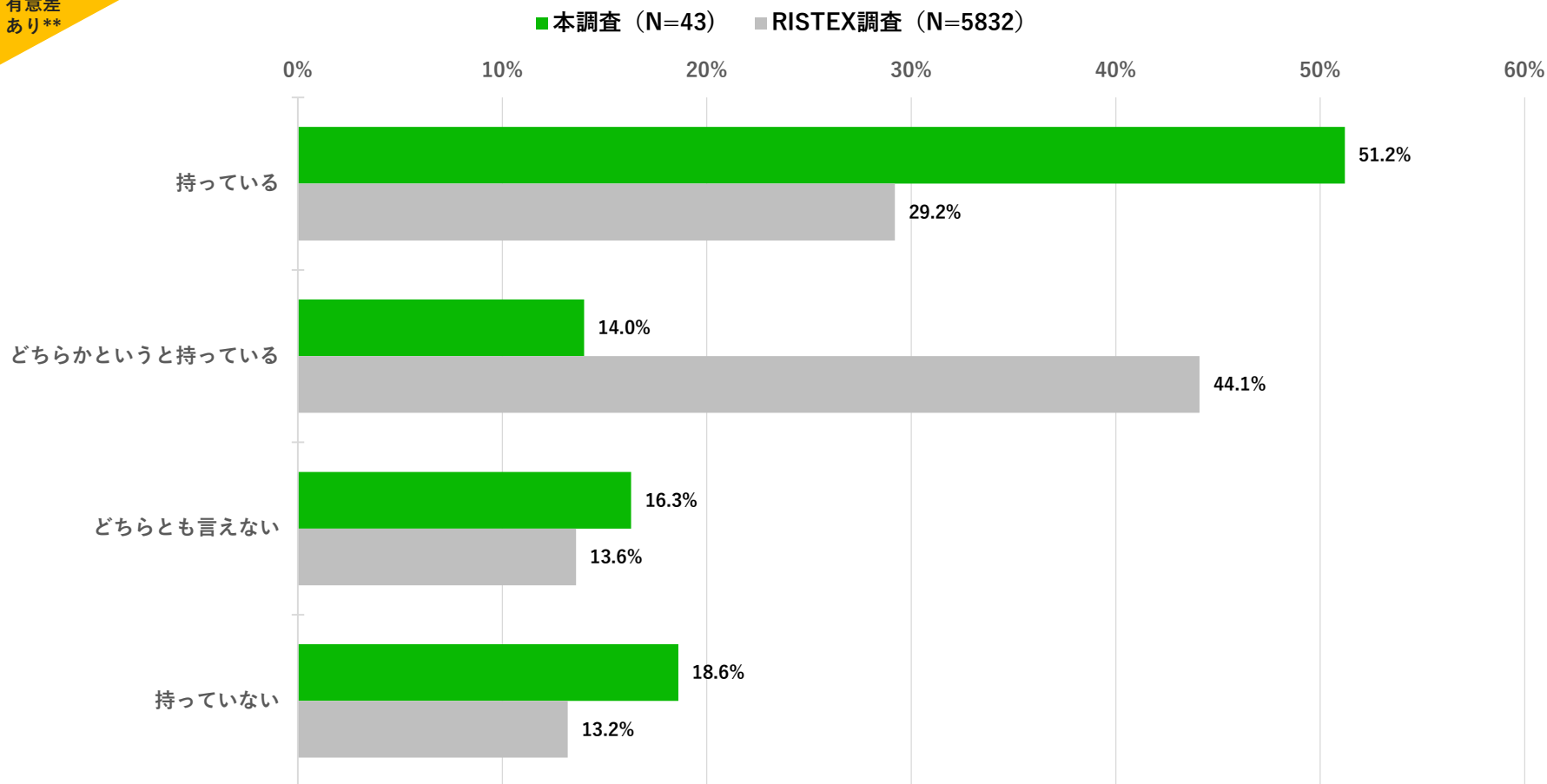


6-5 将来の夢

本調査とRISTEX調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、将来の夢は、持っているの割合が51.2%で、RISTEX調査の「具体的な目標や夢がある」(29.2%)より高くなっています。一方で、どちらかというを持っているが14.0%で、RISTEX調査の「なんとなく目標や夢がある」(44.1%)より低くなっています。どちらとも言えないは16.3%、持っていないは18.6%で、RISTEX調査の「どちらとも言えない」(13.6%)、「持っていない」(13.2%)よりも高くなっています。

問 あなたは現在、将来の目標や夢（社会人になってから実現したいこと等）を持っていますか。 *選択肢が異なるため、同じような選択肢を比較した

有意差
あり**



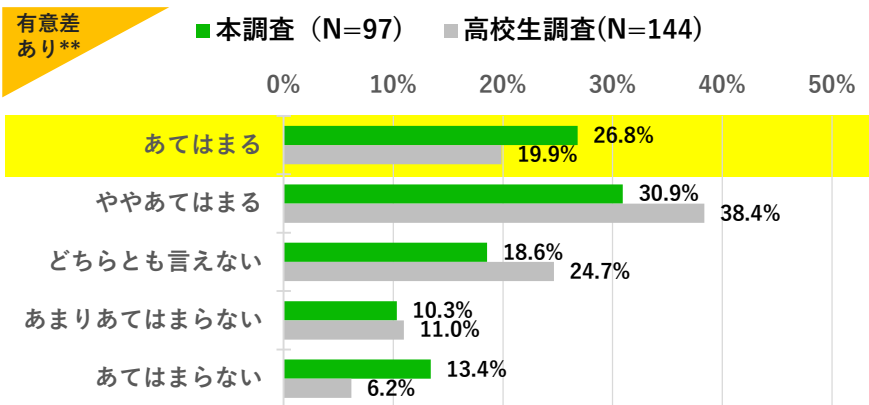
7 2020年高校生調査との調査

お金への価値観

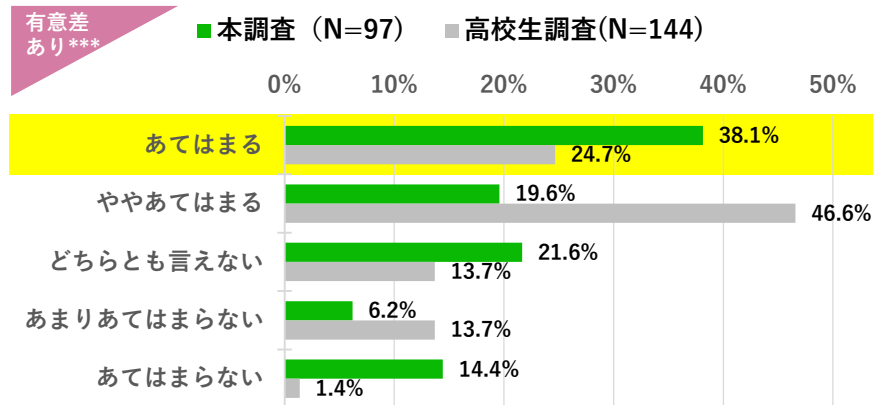
本調査と高校生調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、お金に関する価値観は、「⑤多少無理をしてでもお金が欲しい」にあてはまると回答したのが26.8%で、一般の高校生の19.9%より高い結果となりました。同様に「⑥大金を得るためなら、多少イヤなことでもガマンする」にあてはまると回答したのが25.8%で、一般の高校生の13.7%より高く、「⑦お金があれば、世の中のほとんどのことは困らないと思う」にあてはまると回答したのが38.1%で、一般の高校生の24.7%よりかなり高く、「⑧人間何をするにも先立つものはお金である」にあてはまると回答したのが25.8%で、一般の高校生の15.8%より高い結果となりました。

非行・被害児童等の高校生は、お金への執着が高い傾向にあり、これがトラブルの要因となっている可能性があります。

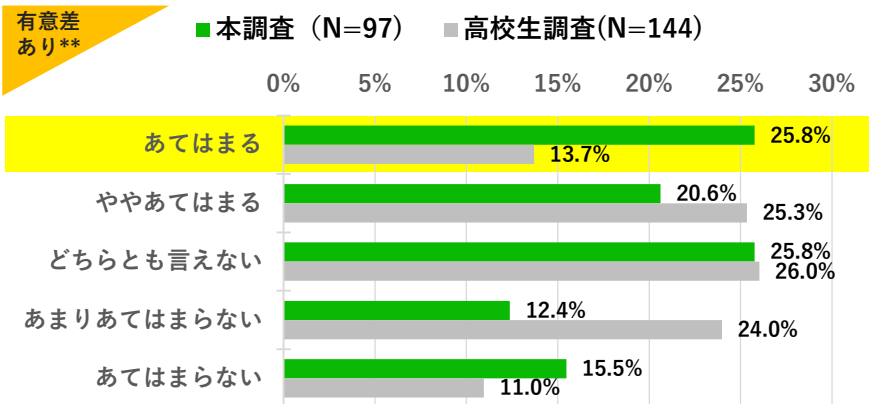
⑤多少無理をしてでもお金が欲しい



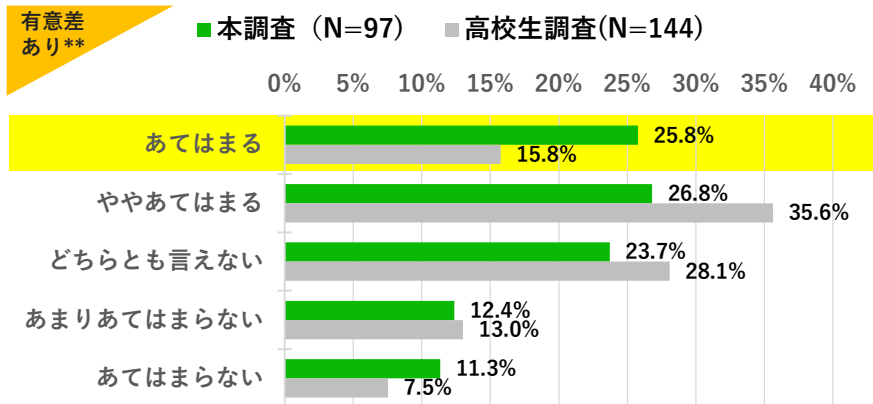
⑦お金があれば、世の中のほとんどのことは困らないと思う



⑥大金を得るためなら、多少イヤなことでもガマンする



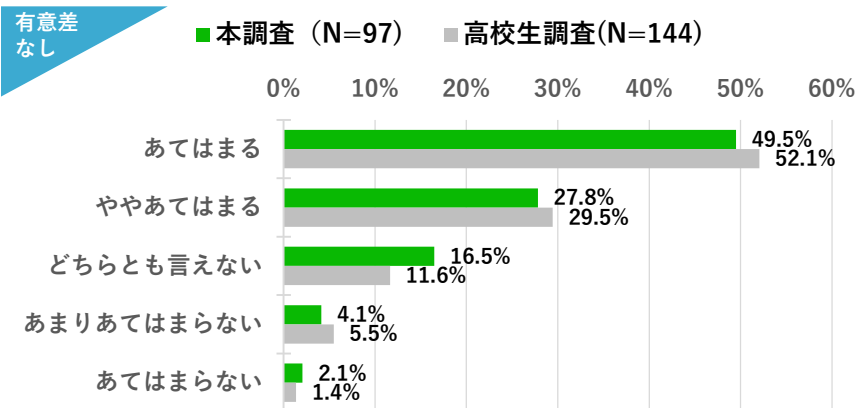
⑧人間何をするにも先立つものはお金である



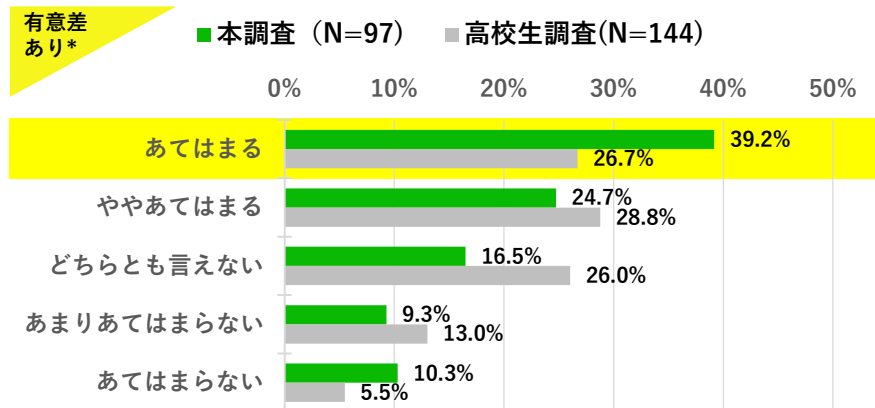
さみしさや孤独感について

本調査と高校生調査の結果を比較すると、本調査の結果は、対人関係に関する価値観は、「⑩だれかにそばにいてほしいと思うことがある」にあてはまると回答したのが49.5%で、一般の高校生の52.1%と有意な差はありませんでした。同様に、「⑪だれかにやさしくしてほしいと思うことがある」にあてはまると回答したのが47.4%で、一般の高校生の50.7%と有意な差はありませんでした。一方で、「⑫たまらなくさびしくなることがある」にあてはまると回答したのが39.2%で一般の高校生の26.7%よりやや高く、「⑬人のあたたかさがむしように欲しくなることがある」にあてはまると回答したのが39.2%で、一般の高校生の30.1%とやや高くなっています。非行・被害児童等の高校生は、さびしさなどの感情は、一般の高校生とはあまり差がないといえます。

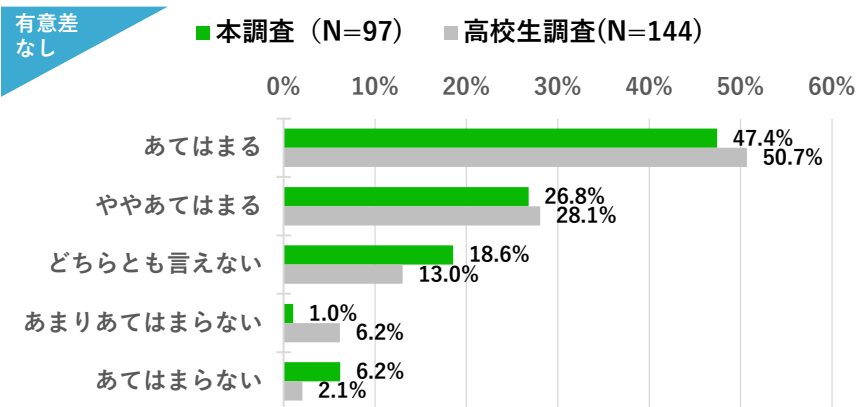
⑩「だれかにそばにいてほしい」と思うことがある



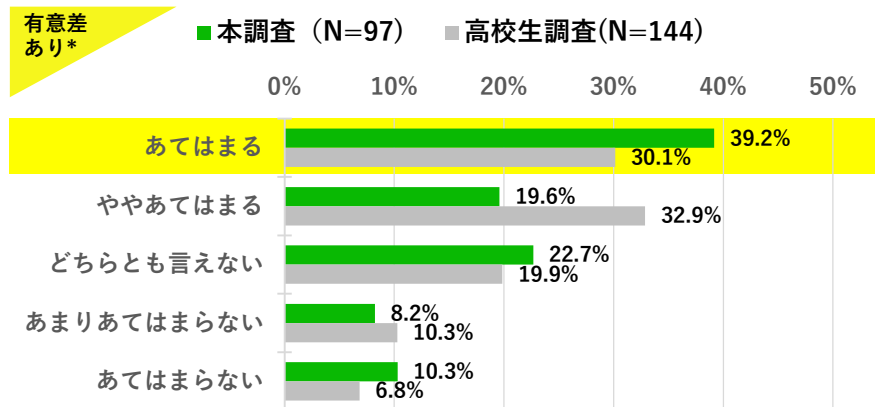
⑫たまらなくさびしくなることがある



⑪「だれかにやさしくしてほしい」と思うことがある



⑬人のあたたかさがむしように欲しくなることがある

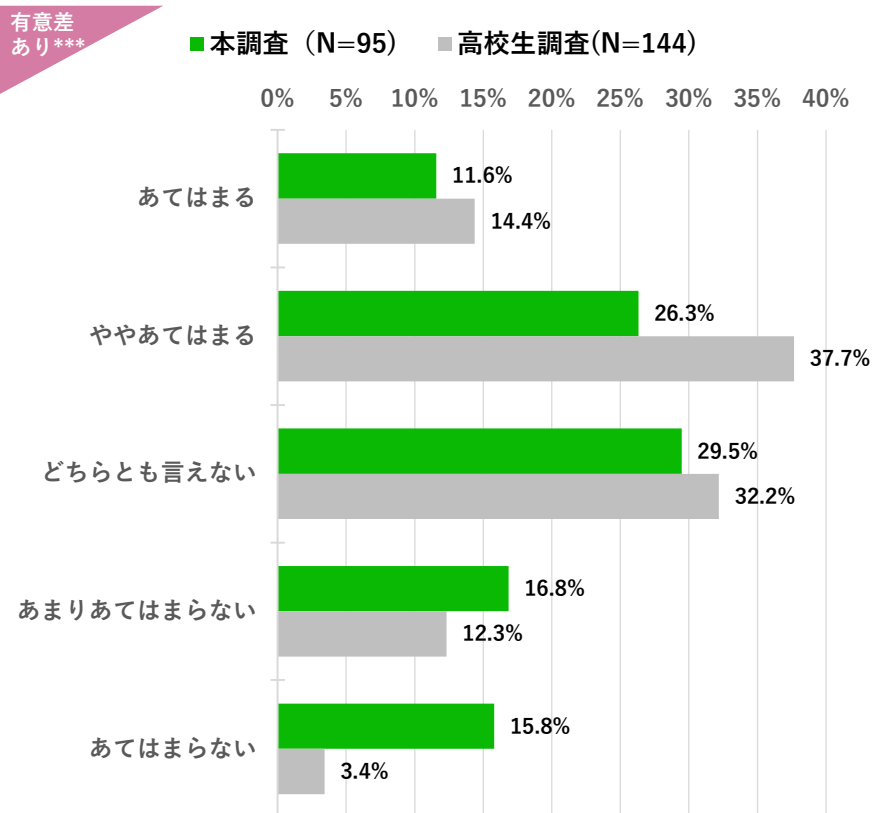


仲間との連帯意識

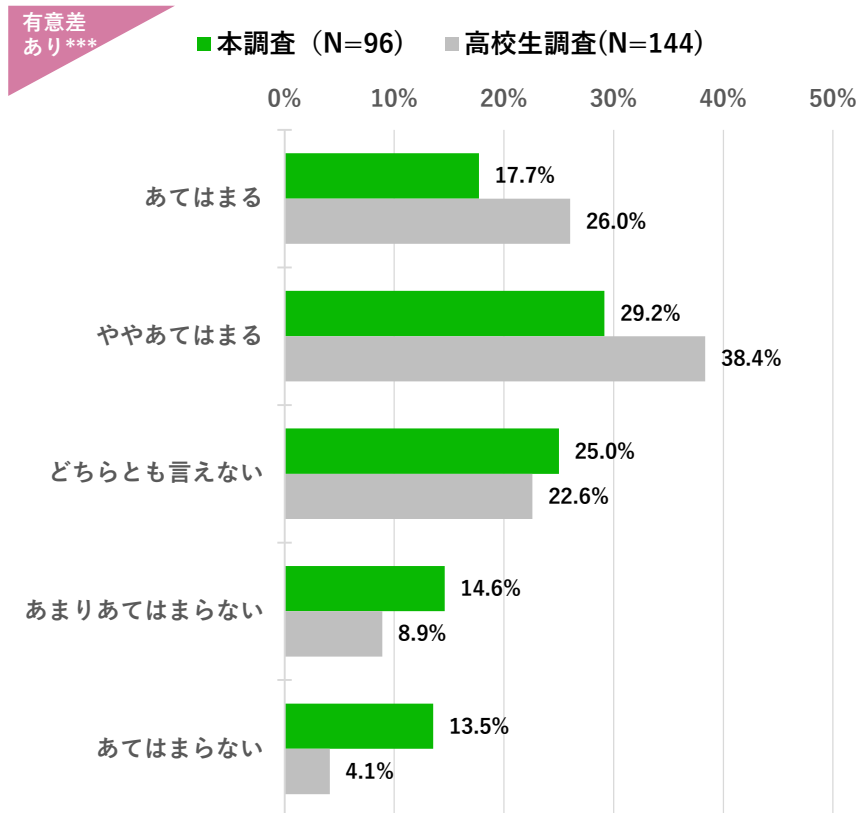
本調査と高校生調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、仲間との連帯意識に関しては、「⑥できるだけ仲間と同じように行動したい」にあてはまるとの回答が11.6%、ややあてはまるとの回答が26.3%、どちらでもないとの回答が29.5%と、一般の高校生の14.4%、37.7%、32.2%よりもかなり低く、「⑦何をするにもみんなと一緒にだと安心する」にあてはまるとの回答が17.7%、ややあてはまるとの回答が29.2%と、一般の高校生の26.0%、38.4%よりもかなり低くなっています。

非行・被害児童等の高校生は仲間との連帯意識が低い傾向にあるといえます

⑥できるだけ仲間と同じように行動したい



⑦何をするにもみんなと一緒にだと安心する



仲間はずれや流行への意識

本調査と高校生調査の結果を比較すると、本調査の結果に関しては、「⑧仲間はずれにされるのは絶対にイヤだ」にややあてはまるとの回答は17.7%で、一般の高校生の36.3%と比較すると、低い傾向があります。また、あまりあてはまらないとの回答は16.7%で、一般の高校生の9.6%よりも高い傾向があります。

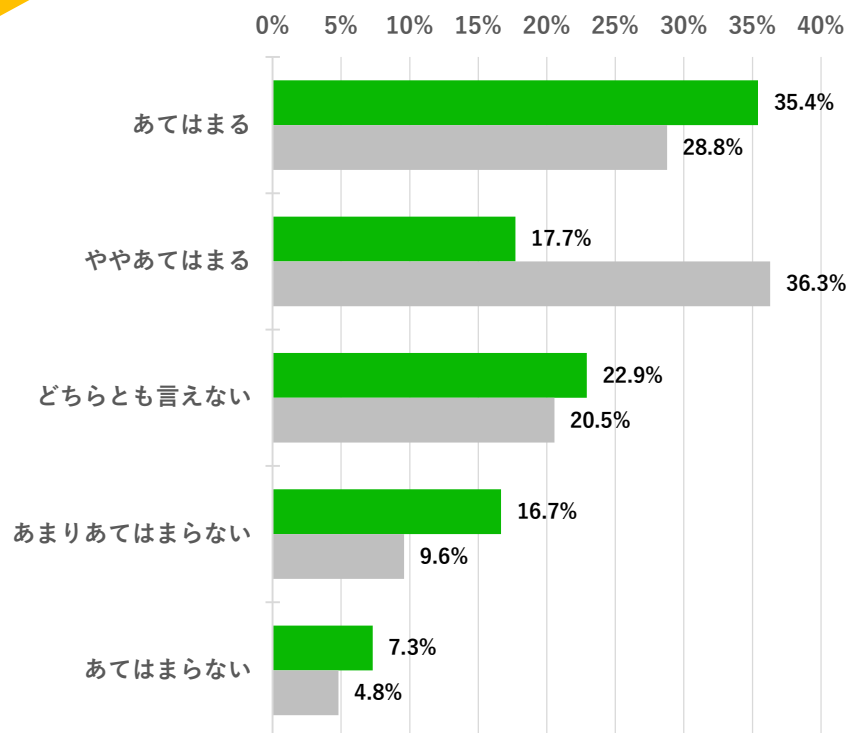
「⑨流行遅れになるのはイヤだ」にあてはまるとの回答は18.8%で、一般の高校生の6.2%よりも高い傾向があります。また、あまりあてはまらないとの回答は14.6%で、一般の高校生の25.3%よりも低い傾向があります。

一般高校生と比較して非行・被害児童等の高校生には、仲間はずれに対する抵抗感の小さい生徒および、流行遅れに対する抵抗感の大きい生徒が多くいます。

⑧仲間はずれにされるのは絶対にイヤだ

有意差
あり**

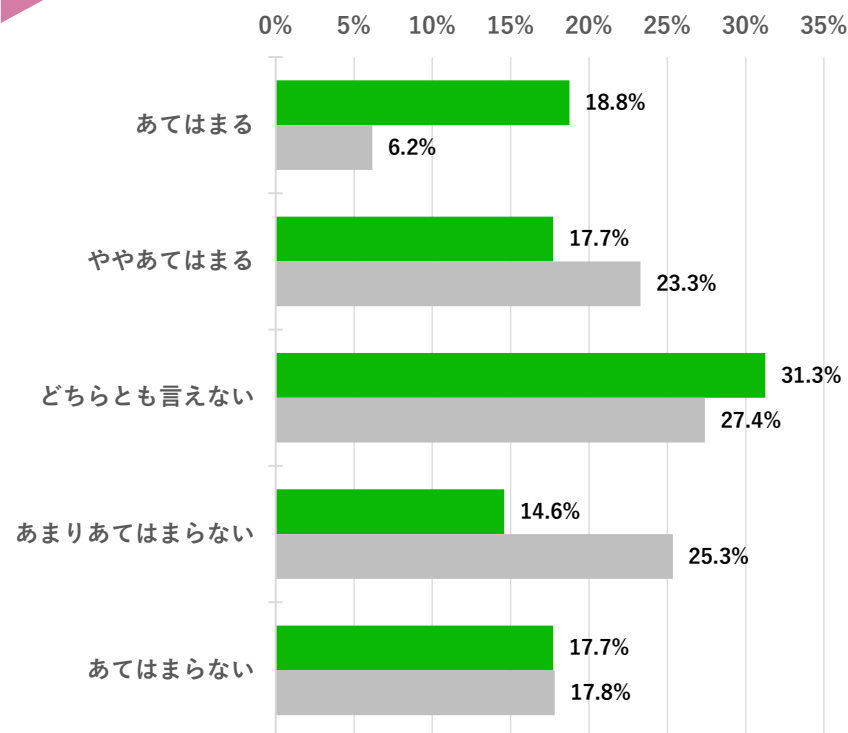
■ 本調査 (N=96) ■ 高校生調査 (N=144)



⑨流行遅れになるのはイヤだ

有意差
あり***

■ 本調査 (N=96) ■ 高校生調査 (N=144)



ネット利用に起因した非行・被害児童等の
ネット利用実態把握を目的とした調査

令和元年度最終報告書

発行日 2021年4月16日

発行者 一般財団法人 LINEみらい財団
〒160-0004
東京都新宿区四谷一丁目6番1号 四谷タワー23階

共同研究 多摩大学 情報社会学研究所
教授・所長代理 山内康英
客員教授 小松正
教授 田代光輝

調査協力 神奈川県警察

装丁・デザイン アラサキデザインスタジオ

©LINEみらい財団